

◆はじめに

このセッションプレイレポートは2021年に開催した神我狩公式配布シナリオ「願いの神」のプレイレポートになります。

GMの都合で一部の誤字脱字や話の流れを修正してあります。併せてご了承ください。尚、再配布などはご自由にどうぞ。

◆目次

◆はじめに	1
◆シナリオ概要	2
◆パーソナリティーズ	3
◆ハンドアウト	6
◆シナリオ導入	8
▼シーン1 .. 邪神追跡	8
▼シーン2 .. 幼馴染の憂鬱	11
▼シーン3 .. 調査指令	14
▼シーン4 .. 久代市に迫る危機	16
▼シーン5 .. 七森学園にて	18
▼戦闘	25
▼シーン6 .. 少女を掴む手	30
▼シーン7 .. 鋼の塔に棲む邪神	41
▼シーン8 .. 願いの神	46
▼最終戦闘	48
◆シナリオ終了	60
▼シーン9 .. ニアンという女	61
▼シーン10 .. 事件解決	62
▼シーン11 .. 現代の魔術師	65

◆シナリオ概要

日常から離れた者。非日常に憧れる者。

散乱するカバン。汚れた制服。

ひび割れ、砕けたディスプレイ。

夜の街を跋扈する怪異の群れ。

願いは、ただ人々の小さな幸せのために。

だが、邪神は……ささやかな幸せにすら代償を強いる。

すべては、奇妙な都市伝説から生まれた悲劇。

武装伝奇RPG神我狩——『願いの神』

## ◆ パーソナリティーズ

● 楸 勝輝 ひさぎ かつてる

数か月前にカミガカリとして覚醒したばかりの闊達な男子高校生。超越者としての能力は隠しているが、いざ友人に危機が迫れば率先して戦いに赴く正統派な主人公タイプ。

肉弾攻撃に長けた「ゴッドハンド」と、影を操る「ダークハンター」の称号を持ち、特に近接戦における一撃の威力に秀でた物理型のアタッカー。

楸…「えーっと、楸勝輝（ひさぎ かつてる）っ！15歳、高校生っす！」

楸…「すっげー高い熱が出た時に変な夢見て…起きたらカミガカリになってました！」

楸…「えーと、称号？はゴッドハンドとダークハンターらしいです」

楸…「やれる事は…まっすぐ行って！ブッ飛ばす！っす！」

楸…「頭使ったりとかは苦手っすけど、体動かすのは得意なんで！よろしくお願いしまーっす！」

● 山田 優子 やまだ ゆうこ

退魔師協会所属のメガネが可愛い巫女さん退魔師。心優しく責任感の強い真面目な少女だが、一度戦闘となれば修練の賜物たる刀技で敵を討つ、生粋の狩人でもある。

武器の扱いに習熟した「アークスレイヤー」であると同時に、二本一対の神剣を操る「レガシーユーザー」でもあり、莫大な力を秘めた二振りの刀で高い打点を叩き出す物理アタッカー。

山田…「はじめまして。私は、山田 優子（やまだ ゆうこ）です。近所の小さな神社で巫女をやっていますよ。何か願い事や困りごとがあるときはぜひいらしてください」

山田…「種族は人間、称号はアークスレイヤーとレガシーユーザー」。

死にかけてたところを助けてくれた剣に使われている子です。幼いころから訓練に明け暮れており少し世間知らずなところがあるかも？

こんな子ですがよろしくお願いします

●あきはやれん  
秋長谷 蓮

退魔協会の下、幼少から修練を積んできた半妖の少女。凄惨な過去を胸に秘め、ひたむきに強さを求める努力家。山田とは兄弟弟子の関係にあたり、いろいろと思うところがある。

山田と同じく「レガシーユーザー」であるが、武器だけでなく肉体の鍛練にも秀でた「マスターイ」。独自の改良と練磨を重ねた一撃で広範囲の敵を一掃する、殲滅力に優れた物理型。

秋長谷…「秋長谷 蓮（あきはやれん）だ。よろしく頼む」

秋長谷…3年前に家族を皆殺しにされた際に退魔協会を去り、色々あって現在は特対に身を置いています

秋長谷…事件現場には首飾りにしてある鹿の頭の骨のようなものが置かれてあったとかなんとか  
秋長谷…いづれ犯人に復讐するためにアラミタマを狩り強くなろうとしている最中です よろしくお願ひします

秋長谷…ビルドは最速で動いて遠距離物理特殊攻撃を霊光昇華！ 記憶再現霊力爆縮！ 素起動霊力爆縮！ って感じで

秋長谷…あ、言い忘れてた 退魔協会の下は勝手に去ったので優子には若干の罪悪感を抱いています 気まずい

●ニアン・ゲンスイ

この世に遍くうごうごする猫と、その眷属たる人間を守護する謎のメイドにして不屈の超人。その正体は全くの不明だが、時折形容しがたい姿に変身するとかんとか。

霊力結晶化のによって不壊の力を得る「ドラゴンキャリア」と、原初の属性を手繰って自他の強化に繋げる「エレメンタルアダプト」の持ち主。不撓不屈の防御力を誇るガード型であり、全霊を込めた一撃だろうと容易く受け止める。

ニアン…「やあ諸賢。私だ、毎度おなじみニアン・ゲンスイだ。えっ知らない？ そっかー」

ニアン…「私はウルタールから来た伝説の超メイド人だ。メイドになったのはこっちに来てからエマ読んだからなんだけどね」

ニアン…「猫が好きだよ、とっても好き。あとメイドはロリ以外は眼鏡かけねば許るさん」

ニアン…「って訳でこの世でもわたしや猫を守るべく活動しているのだ」

ニアン…「って訳でよろしくね。にやる……にゃーん」

ニアン…「仕事は防御が出来るはずですよ。ウルタールの猫とメイドは何人たりとも傷つけてはならぬ」

○九十九奈々つくも なな

年齢…16 / 性別…女性 / 職業…優等生

楸の親友でありクラスメイト。非日常に憧れる夢見がちな愛らしい容貌の少女。

成績も性格も良く、多くの友人に慕われているが、成績で楸に勝った事は一度もない。

その性格はムダにハイテンションである

○サトル

年齢…不明 / 性別…男性 / 職業…都市伝説

使い古された公衆電話機に悪意と「断片」(\*1)が宿り、「アラミタマ」(\*2)と化した都市伝説。

九十九奈々の呼び声を聞いて久代市に降臨するが、山田と遭遇。

深手を負ってしまい、携帯基地局に《灵力結界》を展開して潜む。その性格は極めて非道

(\*1)

虹色に輝く金属片。正体は不明だが、灵力を吸収・操作する力を持っている。

これを宿した存在を「超常存在」と呼び、その種類によって「カミガカリ」「モノノケ」「アラミタマ」などと呼び分けられる。

(\*2)

「断片」を宿した存在が悪意や呪詛を吸収し続けると変貌する、邪悪な霊的存在。主にボスクラスのエネミーがこれ。肉体を持たないため、通常兵器が効かない。

契約者に神通力を授け、願いを叶える代わりに大量の靈魂を捧げさせる《魂の契約》を結ぶことで犠牲者を呼び込み、最終的に憑依。肉体を得て自身の灵力を増幅させるのが目的であることが多い。

◆ハンドアウト

PC① 楸「魔術師の末裔」

コネクション：九十九奈々／友情

サンプルPC：現代の魔術師 条件：高校生

キミの幼馴染、九十九奈々は少し変わった趣味をしている。けれども、とても明るくて、優しい少女だ。

非日常の世界に身をおくキミは、彼女の言葉や思いやりに、どれほど癒されたことだろう。

そう……彼女はキミにとつて、かけがえの無い友人なのだ。

彼女が窮地を迎えたとき、キミは迷わず彼女を守るだろう。

目的：奈々を守る

PC② 山田「闇に生きる退魔師」

コネクション：アラミタマ／敵意

サンプルPC：破神の剣豪 条件：退魔師協会

キミは退魔師協会に所属する腕利きの退魔師だ。

キミは「協会」の依頼により、この街に流れてきたというアラミタマを追い、繁華街へとやってきた。

キミは人造神器を振るい、アラミタマを追い詰める。

目的：アラミタマを倒す

PC③ 秋長谷「特対エージェント」  
コネクション：カミガカリたち／希望  
サンプルPC：黒影の眷族 条件：環境省特別対策室

キミは超常事件を専門とする国家エージェントだ。  
最近、久代市内では若者が突如行方不明になる事件が頻発しており、室長の卜部正人から緊急の呼び出しを受けた。  
なんとしても街の平和を守らなくては。

目的：カミガカリを集め、事件を解決する

PC⑤ ニアン・ゲーンスイ「正義の変身ヒーロー」  
コネクション：久代市の人々／庇護  
サンプルPC：氷の魔神 条件：特になし

キミは影ながら久代市の平和を守る、正義のカミガカリ<sup>(\*)3</sup>である。  
特対のエージェント、黒衣菊理からキミのもとへ、超常事件に対する協力要請があった。  
なんでも真夜中になると、街のいたる場所で恐ろしい姿をした怪人たちが目撃されているという。

市民の平和を守るため、キミは今日も戦いへおもむく。

目的：久代市の平和を守る

(\*)  
3)

「断片」を宿したことで「超常存在」に対抗できる存在になった人類やその味方。  
自身の身体に浮かび上がる幾何学模様、「霊紋」を一部消滅させる《霊紋燃焼》で霊的エネルギーを生み出すことが出来る。

## ◆シナリオ導入

### ▼シーン1…邪神追跡

久代市では最近、怪異出現の噂が流れていた。  
——夜のネオンに照らされた繁華街の路地裏。  
腕利きの退魔師たるキミは街に流れてきた怪異を追い、ここまでやってきた。  
キミが路地の闇に一步、足を踏み出したその時、  
通路の奥から軽自動車がサッカーボールのように飛来する。

サトル…「さあ……潰れちまえッ！」

蹴り飛ばしたのは、眼の白黒が逆転した青白い肌を持つ——学生服姿の少年のアラミタマだ。  
凄まじい圧力により、軽自動車は周囲の壁を破壊しながらキミにむかつてくる！

山田…ではその軽自動車へむかって懐から飛び出した二本の剣が宙を飛びます

山田…そして二つに切り裂いて女性の後方へととんでいく

山田…「その無法ここまでです。調伏されなさい」

サトル…「ツツ……この、クソカミガカリがアッ！」

山田…挑発をむしして、すみやかに間合いを詰めて剣で切ろうとします

サトル…「くっ！」

GM…素早く飛びのく……というより、その場から瞬時に消滅すると

サトル…「靈魂さえ……靈魂さえ食えば、お前なんぞ！」

サトル…「……これでも食らってろオ！」

サトル…怒気をはらんだ音声を上げると、今度は複数台の車が飛んでくる！

GM…飛来する軽自動車は「目標値…15」の【体力】判定に成功すれば、両断して無力化できる

山田…「……?! まてっ」 と追いかけてようとするが…

山田…「って目標値高い!？」

楸…チュートリアルあじある高難度

神我狩の基本判定は「2D6+【能力値】」。

今回の指定は【体力】で、物理型の山田にとっては得意な判定に入る。

……が、それでも能力値は5。成功させるためには10以上の出目が必要になる厳しい難易度。  
というところで、山田は「靈紋燃焼」のひとつ、「物理超越」(\*4)でダイスを+2個することに。  
まずは靈紋の消費量の決定から……

△BCDice：山田 優子△：Kamigakari：(2D6) → 12 [6,6] → 12

山田…「はんぶんになった」(\*5)



ニアン…げっそり

運悪く最大量を引いたものの、これでダイスの数は2+2の4つに。期待値でも問題なく達成できる判定となる。

△BCDice::山田 優子▽:Kamigakari:(2D6+5+2D6) ↓ 7 [2 5]+5+7 [1 6] ↓ 19  
山田…6と3をかえて 達成値 16 にしておきます

出目に余裕が出た事もあり、「霊力操作」(\*6)で6を確保した山田は、サトルの妨害を上手く退ける。

山田…かろうじて剣の動きに体が付いて行って両断できました

サトル…:…くそ、くそ、くそオ!

サトル…「逃げるしかないのか…:カミガカリなんぞ相手に!」

山田…「お待ちなさいっ」

サトル…「っ! 今は…:まだ!」

GM…再び、目の前で瞬時に消滅してしまう

山田…「くっまた手ごたえが…:。やっかいなタレントを持っているようです」

GM…その不可解な移動速度に、カミガカリであるキミは強大な霊力の存在を感じるだろう…:

#### ○情報1

キミが見たところ、あのアラミタマは古い神ではなく、近年生まれた何かしらの怪異が邪神化したものらしい。また、キミは手ごたえを感じていない。

おそらく、アラミタマは逃走したのだろう。だが、どのような手段で逃げたのかはわからない。マンホールからはなさそうだが…:

山田…「私一人の手では負えないかもしれません…:。もつと力があれば…:」 と消えた虚空につぶやいて剣をしまいます

#### (\*4)

霊紋は超越者の身体の一部に浮かび上がる幾何学模様。

カミガカリはこの霊紋の一部を消滅させることで、一瞬だけ物理法則を超越でき、これを《霊紋燃焼》と呼ぶ。

「物理超越」は「霊紋燃焼」効果の一つで、「追加したいダイス数」D6点の霊紋を消費することで判定に使用するダイスを増やすことが出来る、汎用的ながら強力なもの。

#### (\*5)

「霊紋」の初期値は22だが、0未満の値になっても消費自体は可能。

ただし、シナリオ終了時にマイナスの値だと、最悪の場合キャラクターのロストが発生する。

山田…とりあえず霊紋がすぐくへったのでしばらく無理できそうにないです

山田…あとはたくしましたー（おふとんはいる）

GM…早い 早いよ！

秋長谷…ミドルでは霊紋温存して貰えるように頑張るとしよう

ニアン…魔法使いも邪神も居るんだよ

秋長谷…今こいつ邪神って

楸…退散!! 邪神退散!!

(\*6)

PLはセッション開始時に4つのダイスを振り、その出目を各々がストックする。

このストックされたものを「霊力」と呼び、他システムにおけるスキルにあたる《タレント》発動のコストとして主に使用される。

「霊力操作」はこの霊力を、判定に使用したダイスと交換する操作のことを言い、各判定に一度だけ、元の出目を一つ以上残す形であれば、シナリオ中何度でも操作することが出来る。

簡単な判定で高い出目を霊力として確保したり、高難易度の判定で交換して成功させたり……と、霊力をやりくりしながら戦闘に向けて出目を整えてゆく「ダイスコントロール・システム」が特徴の武装伝奇RPG神我狩！ 神我狩をよろしくお願いします！

▼シーン2…幼馴染の憂鬱  
シーンプレイヤー…楸 勝輝

キミは夕暮れの街並みを、幼馴染の九十九奈々と歩く。それは、キミにとつてかけがえのない日常のひとつだ。明るい奈々は、今日も夢見がちなことをキミに告げる。本物の魔術師が目前にいるというのに……。(\*7)

九十九…「……でね、それがまた全然ホンモノとは思えないUFOの写真なのよ！」

楸…「またまたー、どーせ偽物っしょー？」

楸…にしし、と笑いながら両手を頭の後ろで組ませる。

九十九…「うーん……多分ホンモノ……と思いたいんだけど、ヒモっぽいのも見えた気がするし……」

九十九…「あああ……オカルティックロマンは令和の訪れと共に消え去ったのかしら……」

楸…「じょーほーか？　しゃかいですからー」

九十九…「あー……アタシの前に魔法使いとか出てこないかなあ」とため息をつく

楸…「そんな……楸の勝輝さんでは満足できないのかね……！」

楸…わざとらしくおよよ、と泣く素振り1つ。

九十九…「だつてえ……どつちかっていうとアンタ魔術っていうより物理じゃん！　肉体派じゃん！」

九十九…「魔術師ってのはね……もつところ、怪しいローブをかぶって、不思議な宝石からきらめく魔法を放つような……！」

楸…「えー、ダメえ？」

楸…「それにそんな魔術師イマドキいな……ごほん」

楸…（しまったしまった、これは内緒にしないとイケないんだった）

楸…「……んなことより！　もうすぐテストだろー？　奈々はちゃんと対策したのかよー」

九十九…「と、当然よ！　だつて今度の成績が悪かったら……」

九十九…「月刊ラムーが読めなくなるから！　親のせいだ！」(\*8)

楸…「へへへ、真面目に勉強しないとダメだぜー？」

九十九…「わーかってるって……あ、そうだ」

楸…「むー？」

九十九…「今年の夏休みにウチの研究会のメンバーで百物語するんだけど、来ない？」

楸…「百物語いー？　あの怪談100個いうっていう？」

九十九…「そんな声出さないでよ！　実はその時話す怪談の仕込みを携帯のメモにだねえ……あ、ごめん。メール来た」

GM…片手で謝るジェスチャーをしながら、携帯の画面を開くと

九十九…「……え……？」

GM…と、固まる

楸…へらへら、とした雰囲気が一瞬で鳴りを潜めて。

楸…「……何よ、どしたのさ」

九十九…「……あっ」

九十九…「いや、そのゴメン。ちょっと用事できたからさ、先帰るね！ それじゃ、また明日学校でねー！ バイバイお疲れさようなら！」

楸…「あっちょっ！」

GM…楸から逃れるようにして、素早く身をひるがえすと

GM…九十九は小走りで角を曲がっていつてしまった……

楸…伸ばされた手は、行き場を失って。

楸…所在なさに数度揺らした後

楸…「……なんだってんだよ」

楸…小さく呟かれた後に、ゆらりと降ろされた。(\*9)

## ○情報2

九十九奈々はキミの幼馴染であり、筋金入りのオカルトマニアだ。

彼女は自身が会長を務めるオカルト研究会の成果を出すため、山岳部にある携帯基地局の近くでUFOを呼んだり、実家にある古い土蔵で胡乱な研究をしたりしている。

## (\*7)

楸…(ゴッドハンドA)

秋長谷…魔法(掌底)

GM…魔術とは…？

## (\*8)

秋長谷…ラムー読んでんの…

ニアン…そりゃ親も禁止するよ…

楸…悪書ですよ

秋長谷…ラムーなんか読んでたらニアンみたいなのと未知との遭遇しちゃうかもしれないからな…

ニアン…失礼な ちょっと猫が好きだけの異世界人だけですー

山田…読んでないのに遭遇しそうな予感がー

山田…ニアンさん本当に人間かなマレビトじゃないのかな

ニアン…にゃるーん

ニアン…人間だよ

GM…ギヤアツ!

山田…きゃー

秋長谷…やべーぞアラミタマだ

楸…邪神退散!!!!!!11!!!!!!

(\*9)

山田…山田もあんな青春過ぎたかった(ひたすら素振りや滝行の日々)

山田…でもそんな中での蓮ちゃんとの出会いが優しい思い出となっているのです と今決めた

秋長谷…昔はさぞや可愛い妹分だったんだろうなあ…

楸…悲しい

山田…今も可愛いよ?

ニアン…悲しい

秋長谷…うぐっ

ニアン…愛でたい

▼シーン3…調査指令  
シーンプレイヤー…秋長谷 蓮

久代市市役所。その地下には環境省特別対策室、通称「特対」の分室が密かに存在する。キミはその一室に急いで向う。

室長であるト部 正人（うらべ まさと）が、キミを呼び出したのだ。

秋長谷…コココンツと連続でノックしたらすぐさま入室する

秋長谷…「お呼びですか正人さん」

ト部…「ああ、来てくれたか…急な呼び出しですまん」

秋長谷…「いえ、私を緊急の呼び出しとあれば用件は一つでしょう。構いません」

ト部…「…その通りだ、新たな超常事件が発生した」

ト部…「黒衣くんにも、すでに動いてもらっている。秋長谷、キミは他のカミガカリたちを集め、事件の解決にあたってくれ」

秋長谷…「協力を要請しているカミガカリは何名ですか？」

ト部…「君も含めて4名になるはずだ。少人数だが、その方が都合がいい」

秋長谷…「4人もですか、上等ですね。私のスマホに三名の情報を送ってください、向かいながら確認します」

ト部…「わかった。ではそのように」

GM…手早く手配を始めると、その途中で何枚かの紙を取り出し

ト部…「これが事件の資料だ、出発前に目を通しておいてくれ」

○情報3

久代のいたる場所で、超常存在に靈魂を抜き取られた人間の成れの果て——黒いコールター  
ル状の物体〈霊肉〉が多数発見されている。

発見現場では学生服やカバン、スマートフォンなどが散乱していた。

ト部…「ほかに質問がなければ、すぐに出発してくれるか」

秋長谷…「では行ってまいります。朗報をお待ちください」

秋長谷…道中、三名のカミカガリの資料を確認して——

秋長谷…「ゆー、おねえちゃん……」

秋長谷…一瞬、酷く傷ついたような表情を見せた

ト部…「……」その表情に気付いたのかどうか。

ト部…「皆、実力者たちだ。事件解決の心強い味方になる」とだけ付け加える。

秋長谷…「……そうですね」

ト部…「大丈夫、君ならやれるさ」少しだけ微笑んでから

ト部…「さて、私の方も忙しくなりそうだ……いけるか？」と席を立つ

秋長谷…「行けます、いつでも、どんな時でも、必ず」

秋長谷…「必ず……！」

ト部…「頼もしいな……では、頼むぞ」

ト部…と、部屋を出る。

秋長谷…（三人だけでなんとか対処できないか…？）

秋長谷…（いやでも既に対象を追ってたりしてそうだな…そうになると追ってる最中に出くわしかねないな…）

秋長谷…（ニアンは奇人だけど何度か一緒に仕事したことあるからいい…勝輝少年は人の良さそうな人柄のようだし心配はない）

秋長谷…（会わせる顔がない……会いたくない……なんと言って協力して貰えば……）

▼シーン4…久代市に迫る危機  
シーンプレイヤー…ニアン・ゲーンスイ

ここはキミが滞在する拠点だ。

キミがいつものように過ごしていると、そこへ音もなく、黒いスーツに身を包んだ少女——環境省特別対策室のエージェント——黒衣菊理（くろいきくり）が現れた。

彼女からの用件と言えば、ひとつしか思い当たらない。

つまり……この街に危険が迫っている。

ニアン…「もー、帰省帰りの身だつてのにさあ。アラミタマの人は空気読めないもんかねー」

黒衣…「ふふ……相変わらず、お変わりがないようだなによりです」

黒衣…「お久しぶりです。ニアンさん……」**「特対」**（\*10）からの依頼をお伝えに参りました」

ニアン…「はいはい」と傍らの猫バス（\*11）の喉元を一撫でしてから資料やら貰います

#### ○情報4

久代市内では現在、恐ろしい怪物たちに靈魂を抜き取られた人間の成れの果て——黒いコーラル状の物体（霊肉）と、学生服やカバン、スマートフォンなどが発見されている。

怪人たちは無差別ではなく、なにかしらの法則に乗っ取り、被害者に狙いを定めているようだ、キミは思った。

黒衣…「お渡しした通り、超常事件です。他のカミガカリたちと連携し、事態の收拾にあたっているだけですので」

ニアン…「ほうほう、了解了解。全ては猫と猫の眷属たる人類種の為にも頑張らせて貰うよ」

黒衣…「ええ……既にいくつかの被害も報告されています」

黒衣…どうか、よろしくお願いいたします、と頭を下げる。

ニアン…「じゃあ行ってくるねー」と猫バスを頭に乗せると

ニアン…「ふわりと浮かび上がり、天窓から飛んで行きます」

黒衣…ではそれを見送りつつ

黒衣…「ニアン・ゲーンスイ……読めない人だけど、あの人なら大丈夫ね」（\*12）

（\*10）

#### ▽環境省特別対策室

日本国内における超常事件の対応を一手に担う、政府の秘密組織。環境省の一部署に属しているものの、性質上超法規的な権力を認められている。

カミガカリの人材が圧倒的に不足しているため、フリーランスへの解決依頼や一般への情報隠蔽



法的な援助が主な仕事。

( \* 11 )

この時、彼女の立ち絵は猫バスの格好をしたリアル猫画像に変化していた。

秋長谷…まごうことなき猫バス

楸…猫バス…：疑う余地なく

山田…私が知っている猫バスとちがう…

ニアン…頭に乘せて走るとスゴイ速度が出ます

GM…乗るんじゃなく乗せるのか…

楸…アタツチメントなの…？

( \* 12 )

秋長谷…飛びやがった…

山田…猫バスはなぜ空をとぶん…？

ニアン…猫バスだから…

GM…想定外の展開過ぎる…

▼シーン5…七森学園にて

あれから1週間が経過した……キミはあいかわらず、平和な日常を送っている。以前と違うことと言えば、幼馴染の奈々が忙しそうにしているぐらいだ。

放課後を告げるチャイムが鳴る。キミは下校するために、校門へ向う。

楸…少しばかり、ほーんの少しばかり。

楸…なんだよ、俺の事頼ってくんねーのかよ。

楸…なんて、子供染みた拗ね混じりに唇を尖らせる。

楸…苛立ち混じりに数度地面を蹴って、スニーカーを履き校門へと進む。

楸…その歩幅は広く、足並みは早い。

GM……ちようど、校舎裏近くから数人の女子生徒たちがやってくる。

GM…彼女たちは皆、楽しそうにしながらキミの前を通りすぎる。

女子生徒…「よかった……友達との関係、心配してたんだ」

女子生徒…「九十九さんのアレ、すごいよねー」

女子生徒…「百発百中だもんねえ、あの占い」

GM…と、そんな会話が耳に入るだろう

楸…「……」

楸…普段なら、気にも留めなかったであろう女子の会話。

楸…だが、今は何故か胸がざわつく。

楸…思わず足は女子の集まりへと駆けて。

楸…「ねえ！ その話ちょっと詳しく聞かせてもらってもいいかな？」

女子生徒…「わっ、びっくりした！」

女子生徒…「……あれ、楸くんじゃん！」

女子生徒…「ほら、同じクラスの……九十九さんの前4つさきの！」

楸…「よっす、ちょっと気になってさー」

女子生徒…「えー、楸くんも占いか気にする感じなんだ？」

楸…「え、意外かー？ 結構朝の占いか気にしてるぜこれでも」

女子生徒…「うそ、全然そういうのに見えないなあ！ もっと細かい事気にしないで行くタイプに……」

女子生徒…「あ、さっきの話ね！」と手を叩いて

女子生徒…「占いしてくれるのよ、最近！ 九十九さんが！」

楸…「へー、奈々がねえ……」

女子生徒…「これがね、すごく当たるのよー」

女子生徒：「落とし物の場所も、テストの山場も、恋愛関係も！」

楸：「すげえな！」

楸：「そこまで行くとか占っていうより予知染みてる気もするけど……」

女子生徒：「いやいやマジで予知レベルだよあれ！　ほんとすごいから！」

女子生徒：「機会があれば占ってもらえば……あ、九十九さん！」

と、話しているところに、小走りでやってくるツクモの姿が目に入る。

九十九：「あ、楸じゃーん。なにになに？　もしかして、ようやくアタシの噂を聞いてきたのかな？」

楸：「よう奈々、忙しそうじゃなか」

九十九：「そうそう、現代の魔術師ツクモさんはもう忙しくてねえ……」

楸：「現代の魔術師なー」

楸：「……なー奈々、占いの話俺にも詳しく聞かせてもらってもいい？」

楸：「俺の尊敬するししよー曰く。」

楸：「有り得ない」は1回までなら、奇跡で済む。

楸：「数度続けば、それは――。」

楸：「異常事態」である。

九十九：「お、気になっちゃう感じ？　じゃあ親愛なるキミにそのスーパーパーの片鱗を見せてあげちゃうよ……」

GM：「こういうのは論より証拠だからねえ、とにやけつつ

九十九：「ホイ送信！　さっ、携帯をごらんなさいませ！」

GM：「すぐに奈々からメッセージが届く。」

楸：「アプリを起動し、メッセージを確認する。」

そこには――なぜか文章が書かれておらず、やけた黒い紋様のようなものが描かれた画像が添付されているのみである。そのとき、キミは妙な違和感を覚える。

九十九：「ね、どうだった？　未来見えた？　なんて書いてある？」

楸：「……」

楸：「一步、彼女へと踏み込んで。」

楸：「彼女の耳元に口を寄せる。」（\*13）

楸：「……奈々」

楸：「お前、何」したの」

楸：「不安は広がる。水へと落とされた一滴のインクが如く。」

九十九：「ど、どうしたの……怖い顔して……」

九十九…普段のそれとは違う彼の態度に驚きつつ、そう答える

楸…「答えて。……………これ、はつきり言う」と

楸…「ロクなもんじゃねーよ」

楸…これが何かはわからない。しかし。

楸…これが、普通じゃない事は経験の浅い自分にだってわかる。

九十九…「そ……………そんなことないよ！ サトル君はそういう危ないオカルトじゃないし……………！」  
（\*14）

九十九…「それに……………お祓いだってちゃんとしてるから、大丈夫だって！」

楸…「サトル君」

楸…「……………お祓いが必要な事してんの、お前!？」（\*15）

楸…思ったより、思っていたより事態は深刻だった。

楸…「お前、お前マジで今すぐそれやめろよ!？」

九十九…「ち、ち、ちがうって！ あくまでも保険よ、保険！」

九十九…と顔の前で手を振りつつ……………

九十九…「……………あの、マジめにヤバイ感じ？ よくわかんないけど……………」

楸…「俺もあんま詳しくねーけどさ……………その」

楸…「すげー嫌な予感するんだよ、これ」

楸…霊的な、超常的な現象は口に出してはいけない。

楸…それが実在するとわかれば、混乱を招くだけだ。

楸………………ましてや、目の前のこの少女は実在を確信すれば暴走するだろう。現にしてるし。

楸…「上手くは言えないけど、今すぐやめたほうが良いと俺は思う」

九十九…「……………楸、こういう冗談とか言わないタイプだよね」

九十九…ふう、と長い溜息を吐いて

九十九…「わかった。現代の魔術師、九十九奈々は本時刻をもって閉業！」

楸…その言葉にほっとした表情を浮かべて。

楸…「あんがと、ごめんな」

九十九…「ん、別に……………本気で心配そうな顔してたから」

九十九…「むしろ、止めてくれてありがと……………」

九十九…目を伏せ、少しだけ赤くなった顔が……………

九十九…「あああああッッ!！」

楸…「っ!？」

九十九…「いつけね！ 忘れてた!！」

九十九…「今日占いの予約！ あと1件だけあるんだ!！」

楸…「……………キャンセルでいいんじゃないかねえのお!？」

九十九…「うん、だから直接謝ってくる!！」

楸…「えらいっ!！」

九十九…「ただ、問題が一つ……………」

九十九…と、携帯の時計を指し

九十九：「あと5分で、徒歩10分の目的地にいかんやらん」

楸：「……………」

楸：「奈々、場所どの辺？」

九十九：「えっとね…………喫茶店、あのーどこだっけ、あのあれ…………！」

九十九：「七森商店街！ うわーマジ急がなきゃ…………！」

楸：「わーった」

楸：少女の体を迷う事なく抱き上げる。

楸：「しっかり捕まってるよ」

九十九：「うわわわわ！ ちよ、ちよっとたんま！」

九十九：「荷物！ 荷物教室から取ってくるから！」

九十九：「くるりと身をよじり、不格好に地面に降りようとす。

九十九：「連れてつてくれんのはいいけど、そんならついでに頼みがある！」

九十九：「一人で謝んの正直怖いから…………その、校門で待ち合わせ！ いいね！」

九十九：「すぐ！ すぐ戻るからあ！」

GM：「紅く染まった顔は夕日のせいか、それとも暴れたせいか。

楸：「おわつと、と小さく吹き振りほどかれるように彼女は降ろされて。

楸：「早く取ってこいよなー！」

九十九：「おー、全力ダッシュだちくしょー！」

叫んだ小柄な背中が、校舎の角を曲がって消える。

とたとたという駆け足の音が遠ざかってゆく中…………

…………不意に、あたりの雰囲気が一変する。

楸：「…………っ！」

突如として、目の風景が灰色に染まり、左右反転する。

鏡の向こうへと入り込む超常の術——《靈力結界》（\*16）だ！！

楸：「くっ……………まずい！」

《靈力結界》内のいたる場所からラルヴァが現れ、

ラルヴァ×4 A：「メールを受信しました」

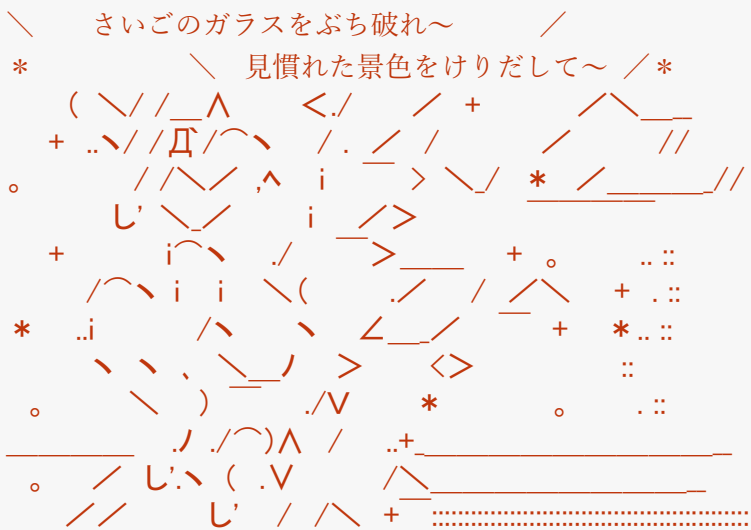
ラルヴァ×4 B：「メールを受信しました」

ラルヴァ×4 C：「メールを受信しました」

ただそれだけをつぶやきながら、徐々に距離を詰めてくる…………

楸：「くっそ！ 何なんだよ……！」

ニアン：じゃあそこで登場します。突然教室の窓ガラスが砕け散り



ニアン：と猫を頭に乗せたメイド服の女が突入してきます(\* 17)

楸：「うおあ!!」

楸：急に入ってきた謎の乱入者に思わずたじろぐ。

ニアン：「良かった無事のような少年！」

楸：「えっあっ…あ、あなたは……？」

ニアン：「通りすがりの猫好きメイドだ。今はこんな化け物を退治……する人の肉盾をやっている」

ニアン：「さあ来い邪悪な化け物ども！ 私は銃器ぶっぱなすならまだしも生身の戦闘じゃないま  
いち役に立たないぞ！」

楸：「え、ええと……あ、ありがとうございます……？」

秋長谷：——話す二人の目の前にバイクが突如現れ一人の少女が飛び降りる

楸：「うおあーっ!」

秋長谷：「間に合ったか。勝輝少年とニアンだな？」

楸：「え、ええと！ は、はい！ 楸勝輝です！」

ニアン：「はろー蓮ちゃん、良かったこれで殴られ損にはならなさそうだぜ！」

秋長谷…「私は環境省特別対策室のエージェント秋長谷蓮だ！今回の事件を解決するため派遣された」

楸…「かんきよーしよー……あ、トクタイの人！」

秋長谷…「アラミタマは…今はいないようだな。迅速に撃破し、アラミタマを追うぞ！」  
楸…「……！アラミタマ関係なんすね……！わかりました！」

山田…結果の空にカシャーンとガラスが割れたようなヒビがはしり、その隙間から一匹のハトが飛んでくる

山田…宙でくると回転すると巫女装束に身を包んだ女性へと変わり地上へ降り立つ

楸…「どわあっ!？」

山田…「アラミタマ、サトル。ようやく見つけたわっていないじゃないっ」

山田…そして周囲にいる三人を見て

秋長谷…「……っ、あ」

秋長谷…咄嗟に顔を逸らす

山田…「あ、えっと、助けに来たカミガカリよっ。力を合わせて退治しましょうっ」といいます  
まだ蓮ちゃんには気が付かない

ニアン…「……眼鏡巫女だと……ッ！」

楸…「ど、どうも！」

秋長谷…「スーッ」深呼吸して

秋長谷…「4人、揃ったな。では戦闘を開始する！」

ニアン…「よーしじゃあ私が先行して袋叩きにされてるから、諸賢はその隙について蹴散らしてくれ！」

秋長谷…「言い方！」

山田…「参りますっ」と答えてなんだか懐かしい感じをうけたりする。

楸…「……うっし、いっちょやっ तरीますか！」

(\* 13)

GM…距離が…距離が近い…！

山田…キャラは無意識にやってるだろうなのがいいよねー

秋長谷…これはとんだすけこましボーイですよ

ニアン…えっちな話と聞いて来ました

山田…耳元でささやくのはえっちなか？ はい、えっちなすね

山田…よいですねー ういですねー

ニアン…分かってはやれなさそうな性格なのが良い！

(\* 14)

山田…ふーん サトル君っていうんだー そっかー

山田…サトル コロスベシ(きししゃー)  
サトル…<sup>い</sup>

山田…霊紋を12も奪った罪つぐなえー(逆恨み)

(\*15)

秋長谷…私霊能者なんで多分お払いとかもやれる

楸…すげー!

山田…私宗教家なのでたぶんお払いとかお祈りとかできる

ニアン…すごい

ニアン…私たぶんそういうの食べられる

GM…すごい すごいの意味は違うが…

秋長谷…チェーンソー持って来なきゃ

山田…おいしいの？

ニアン…ううん

山田…おいしくないのかー じゃあいいや

(\*16)

○霊力結界

“鏡の国”や”プルガトリオ”などとも呼ばれる、超常存在の霊力によって作り出された特殊な空間。

結界内部は現実と鏡写しの別空間で、どれだけ破壊されようと現実空間に影響はなく、その戦いを外部から見ることができない。

カミガカリは周囲の戦闘による被害を防ぐために、アラミタマは自らの存在を他のアラミタマから秘匿するために展開することが多い。

莫大な霊力が渦巻いている影響で、人類は長時間の滞在を続けると急速に老化してしまうが、この老化は日光を浴びて1日休めば解消される。

(\*17)

このシーンはもともと戦闘の直前に全PCが合流、戦闘開始……という流れになっており、既に登場済みの楸以外は裏で登場のタイミングを計っていたのだが、

秋長谷…はいじゃあ私バイクで玄関まで突っ込みます

楸…ガシャーン

ニアン…じゃあ私窓ガラス突き破って突入します

GM…可愛い公共物がどんどん壊れる

山田…私は…空からとびおりにこよう

という流れからこういうことになった。いや本当にびっくりした……。



▼戦闘

今回の戦闘地帯は以下の通り。

	1	2	3	4	5
A			■		
B					
C					
D		■		■	
E	■				■
F					
G					
H		△	△	△	
I		△	△	△	

■ … ラルヴァ×4  
 △ … PC初期配置

配置を終えたカミガカリ一行は「識別」に挑む。

これは神我狩版の魔物知識判定のようなもの。敵の霊紋からその神名を割り出すことで、対象の能力を正確に把握することが出来る。

使用する能力値の都合上、魔法型のPCが得意とすることが多い。

今回の敵は、人間の邪悪な意思や記憶が断片の影響を受けて実体化した最下級の混沌モノノケの群れ、「ラルヴァ×4」。LV1ということもあって識別の難易度を表す「知名度」は11。

物理型のPCが多いこともあり、各々やや厳しい状況で判定に臨む中、「識別」の達成値をプラスするタレント《人生経験》を持つニアンは、「物理超越」でダイスを+1個しこの判定に挑むが…。

ニアン…1d6 燃烧

△BCDice…ニアン・ゲーンスイ↓::Kamigakari:(1D6)↓2

ニアン…3d6+2 【知性】

△BCDice…ニアン・ゲーンスイ↓::Kamigakari:(3D6+2)↓13 [1,6,6]+2 ↓15

楸…あ、クリティカルだ

ニアン…クリった

山田…くりつと

ここでクリティカル！ 相手の情報を暴きつつ自身の霊力を整える好調な滑り出し。

ニアン…「混沌モノノケだ、我々からすれば雑魚だな」

「タイミング開始」で《結晶装着》を使用、「装甲」と「結界」に+3点と防御を固める。

こうして両陣営のセットアップが完了！ 開戦の火蓋が切られた！  
先陣を切ったのは秋長谷！ 「準備」で戦闘移動、ラルヴァ2体に隣接すると……

秋長谷…太刀風 3と4を消費

秋長谷…武器の効果で対象+2体

秋長谷…ACEを対象

秋長谷…物理超越を1回

秋長谷…1D6 霊紋消費

△BCDice…秋長谷 蓮▽: Kamigakari: (1D6) ↓ 3

秋長谷…3d6+5▽=11 命中

△BCDice…秋長谷 蓮▽: Kamigakari: (3D6+5▽=11) ↓ 12 [3,4,5]+5 ↓ 17 ↓  
成功

秋長谷…霊力1と出目4を交換 達成値14で成功

半妖の強力な攻撃タレント《太刀風》を命中させる！

さらに《霊光昇華》(\*18)でランクを上げつつ超過霊力を取得、《記憶再現》(\*19)で「神器能力  
霊力爆縮」を乗せ、《異能改良》(\*20)で再度ランクを向上！

都合4つのタレントを乗せた複数体高火力攻撃がラルヴァを襲う！

山田:「この霊気…あの技は…もしかして？」

秋長谷…C(5\*4+31)

△BCDice…秋長谷 蓮▽: Kamigakari: 計算結果 ↓ 51

秋長谷…出た出た

ニアン…なぞ

合わせて51点の物理ダメージを耐えきれはるはずもなく、3体のラルヴァが消し飛んだ！  
盤上に残るは2体。続いて動いた山田はラルヴァたちと隣接して「近接状態」になり……

山田:「空間崩壊」で対象を範囲に 蓮ちゃんはのぞく

山田…あたれー

山田…2D6+6 【命中】

△BCDice…山田 優子▽: Kamigakari: (2D6+6) ↓ 12 [6,6]+6 ↓ 18

楸…ワオ

秋長谷…すっげー

ニアン…わぁ

GM…クリった！ ということは自動成功だ！

秋長谷…係数10! 係数10!

命中判定をクリティカル！ 自動成功に加え、ダメージ係数が×10へ増加！

ここに《両手利き》《雌雄一对》によって番えた二振の刀が持つランク向上効果を同時起動！  
《記憶再現》でダメ押しのレストラン+1を加え……

山田：C(10 \* 4 + 17) 物理攻撃

^BCDice：山田 優子√：Kamigakari：計算結果 ↓ 57

ラルヴァ×4 B：わあ

ニアン：さつゝい

楸：消し飛ばんでねえか？

GM：飛ばね！

山田：「御剣流二太刀、桜花っ」

山田：踊るように切った後に剣をしまします(ちゃきん)

ラルヴァ×4 B：では、踊りが終わった直後、舞い散る花のようにラルヴァは倒れ伏してゆく

GM：……気が付くと、あたりから不穏な気配が消えている。

山田：「成敗」

楸：「……すっげー」

ニアン：「わあお、私無事だったの久しぶり」

秋長谷：「この後いっぱい殴られて貰うから、頼むぞ」

ニアン：「そんなー」

秋長谷：「まあいつも通りでいいいつも通りで……お前はそれがいい」

楸：「っ！ そうだ、奈々！」

山田：「……あいさつしようとおもったのですが、何やら取り込み中のようなですね」

秋長谷：「そのようですね、勝輝少年、奈々とは？」

楸：「俺のクラスメイトで……こうなった時に、まだ校舎の中に居て」

ニアン：「君の彼女さんかな？」

楸：「そんなんじゃないです！」

秋長谷：「邪悪な気配は周囲には感じない。奈々少女は無事だと思うが——連絡は取れるか？」

楸：「……！ そうだ、LINE！」

楸：LINEで通話をつなげようと試みる

山田：現代は便利だなー

GM：では、LINEを開く……

GM：開けない

GM：代わりに表示されたのは、あの黒い文様

楸：「っ!？」

秋長谷…「どうした？」

ニアン…「おおう黒だよ真っ黒」

秋長谷…「覗き込むのは行儀がよくないぞ？」

楸…「これ……その、スマホにさっき送られてきた画像なんですけど」

楸…「画面がこれから切り替わらなくて……どうなってんだ……!？」

秋長谷…「……それ、誰から送られた？」

楸…「奈々、です。奈々から送られました」

楸…「占いつつって……」

秋長谷…「まずいな……急がなくては手遅れになる」

ニアン…「んー、教室とかには残ってなさそうだからその喫茶店に行ってみようか」と走って学校を探してきました

山田…「……とりあえずその女性をおいませう。何もなければそれでよし、何かあれば急がねば。いきそうな場所へ案内を」

山田…「とうながしますですよ」

ニアン…「とりあえず足で追ってみようか。どこに行くって言った？ 私を連れて行ってあげよう」と頭に猫バスを乗せながら

楸…「行きそうな場所……つつつても、あ」

楸…「七森商店街の喫茶店！」

楸…「約束があるって言ったから……行くとすれば、そこかも」

秋長谷…「よし、急ぐぞ」バイクのエンジンを掛ける

楸…「……奈々……!」

山田…「ならいそぎませう。ああ車もつてくれればよかった、鳥になって飛んできたから……」

楸…「えっ」

山田…「あとで合流しますので、先に向かってください」

ニアン…「じゃあ私に捕まるか蓮ちゃんのパイクに乗ったら？」

秋長谷…「一人なら乗せられる」

楸…「……じゃあ、お言葉に甘えます！」

秋長谷…「ああ、急ぐぞ。君の大切な人のもとに」

楸…「はいっ!」

ニアン…「じゃあゆーたんはこっちで」と抱え上げると



▼シーン6…少女を掴む手

シーンプレイヤー…ニアン・ゲーンスイ  
イベント…情報収集

キミたちは奈々を追い、七森商店街へとやってきた。

奈々が約束の学生と待ち合わせしていたのは、たしか裏手の通りにある喫茶店という話だ。

G M…キミたちが足を運ぶと、喫茶店の入り口に【霊紋】が刻まれている。

G M…そして、喫茶店内は湯気のためコーヒーが残されたままなのに、誰もいない。

G M…これは……《霊力結界》が展開されている証だ！

楸…「な…んだってんだよ……！」

秋長谷…「突入だ！」

楸…「はい！」

ニアン…「いや待って待て、こういうのは解除した方が**確実だ**。主に殴られるこちらの身にもな**って**くれたまへよ」

山田…「下手に解除すると中にいる怪異が外でみられてしまいます。先に対応を」

山田…「といって中にとつにゅー

ニアン…「そっかー」

秋長谷…「行くぞ！」

ニアン…では**結界をぶち破ってとつにゅう**

ラルヴァ×4…「メールを受信しました。メールを……」

G M…「うわ、うわあああ！」

G M…「いやあつ、助けてええ！」

G M…キミたちが《霊力結界》に突入すると——そこにはラルヴァたちに囲まれ、怯えている奈々と学生たちの姿が！

G M…だが、錯乱する奈々は、キミたちの姿に気付いていない

楸…「——奈々ッ！」

楸…彼女たちの姿を見て、眉間に皺が寄る。

楸…「くっそ……とつとと散らさねえと」

秋長谷…「ラルヴァは私達が処理する、勝輝少年は奈々少女の下へ急げ！」

楸…「……ありがとうございます！」

山田…「こつちにこいモノノケたちっ。私が相手してあげるっ」とラルヴァたちに挑発してひきつけようとしています。タレントじゃないからあまりうまくいかないけど

ラルヴァ×4…「メールを……メールを……」とゆらり

ニアン…ムハハハハ、幾らモノノケであろうとウルタールの猫を傷つけることは許さぶへらっ、ちよっと、私だけを的確に殴るのはやめっ」

ラルヴァ×4…バシイバシイ

秋長谷…「今だっニアンが殴られるおかげで道は開けた！」

秋長谷…サンキューニアン！

GM…君の犠牲は忘れない…

山田…「くっ。あんな的確にひきつけるなんて…さすが派遣されたカミガカリってわけね」

3人によってラルヴァがひきつけられている間に、九十九の下へとたどり着くことに成功する楸。だが彼女は怯え切っており…

楸…「奈々ッ！皆！無事か!？」

九十九…「あ…ああ…」

九十九…「こ、こんなはずじゃ…ア、アタシはただ…ふ、不思議な力で…みんなの役に立ちたかっただけなのに！」

楸…「落ち着け！」

九十九…「ひっ…さ、サトルくんが…呼び出してないのに…!!！」

GM…青白い顔の彼女の前で、テーブルに置かれた携帯が怪しく震える

楸…「……！」

楸…携帯へと視線を向ける。

サトル…「教えてあげるよ、ナナ。キミがこの先どうなっちゃうのか……」

GM…「…画面に表示されたあの文様から、聞き覚えのない、冷たい笑い声が響く

サトル…「キミたちは永遠の暗闇の中で、魂魄を擦り減らし、ただ摩擦していくだけさ!!」(\* 21)

GM…直後、画面を突き破るようにして何十本もの青白い腕があふれ出す

楸…「なっ!？」

GM…腕はツクモの手をつかみ……

九十九…「イヤアアアアッ！楸ッ、助けてえ!!！」

楸…「く……奈々ッ！」

楸…奈々に向け、手を伸ばすが――。

GM…その行く手をラルヴァたちが遮る！

GM…周囲のラルヴァたちは、明らかに数を増している……

GM…まずはこいつらを追い払わねば！

ここで再びの判定。青白い腕、およびラルヴァたちを追い払うために、それぞれ「目標値…15」の【命中】と【発動】の判定に成功しなければならない！全員が判定に挑む中、秋長谷は物理超越でダイスを増やし【発動】を元より物理型な楸は【命中】の判定を担当することに。

秋長谷…3d6+2√15 発動

△BCDice…秋長谷 蓮√:Kamigakari:(3D6+2√15)↓7[1,3,3]+2↓9↓失敗  
秋長谷…出目1と3を霊力6と5で交換して達成値16 成功

楸…2D6+9 【命中】

△BCDice…楸 勝輝√:Kamigakari:(2D6+9)↓8[2,6]+9↓17

山田…おーお見事

楸…交換無し、成功

ニアン…おみごとだー

GM…二つとも成功！

山田…ダイス目までヒーローしている すてき

GM…カミガカリたちの活躍によって、ラルヴァは退けられ

GM…携帯から伸びた手も切り伏せられ、掻き消える

サトル…「おの……れエ……カミガカリ……」

サトル…「貴様らさえ……いなけりゃ……」

サトル…「もつと……靈魂が……あれば……！」

山田…「それ以上奪わせません」 と門になっていそうな携帯壊したいけどいいです？

と、ここで危険な気配を感じた山田は携帯の破壊を提案し、これが承認される。

山田…じゃあ神成神器の刃でシャランと携帯を切断します

彼女の手によって携帯が両断される直前、その画面に一瞬だけ、おぞましいナニカの姿が映し出され——そしてそのまま真つ二つに。画面は暗く、もう動く様子もない。

秋長谷…「……あれがサトル君？」

楸…「……なんだよ、アレ」

山田…「あれがサトル…わたしたちが倒すべきアラミタマです…」

ニアン…「どう見てもサトル君って可愛らしいもんじゃなさそーだけど」

秋長谷…「靈魂を…と言っていたな。放っておけばまた狩りをしだすだろう。殺さねば」

楸…「……あっ、そうだ」

楸…「皆大丈夫か!？」



楸…襲われていた同級生、そして奈々へと顔を向ける

女生徒…「わ、私たちは……なんとか……」

九十九…「……あたしも、うん、大丈夫……と、思う……」

楸…「……良かった」

九十九…「あ、アタシ……知らなかったの……ま、まさか『サトル』が、あんなにも恐ろしい存在だったなんて……」

九十九…「あたしはただ……」と、そこで言葉が途切れる。

楸…目を細めて。

楸…「だいじょーぶだから、奈々」

楸…「俺が全部解決してやる」

九十九…「……はは、確かに……」

九十九…「楸なら……どうにかできる、なんて……信じちゃいそう」

楸…にしし、と笑う。

楸…「おーよ。俺は天下の楸勝輝さんだぜ？」

楸…「任せとけ。これ以上、お前を危ない目には遭わせない」

九十九…「……ふふ、調子にのっちゃってさ」

九十九…「でも、ありがとう」

楸…「どーいたしまして、へへっ」

楸…「蓮さん。皆のこと、事件が終わるまでトクタイさんをお願いしても大丈夫ですかね」

秋長谷…「ああ、構わん。事後処理はうちの仕事だからな」

秋長谷…「連絡は既にしておいた。時期に職員がやってくるだろう。私達はあの化け物を追い、そして討伐すれば全て解決だ」

楸…「ありがとうございます！」

山田…「んんんー？ 蓮？ やっぱり蓮ちゃんなの？」

山田…その呼びかけでようやく確信を得たのか、蓮さんの方に近寄ってのぞき込んでくるですよ

秋長谷…「ーヒュ」油断していたのか急に近寄られてか細く息を吸う

山田…「蓮ちゃんだよな？ 立派になってかつこよくなってるけど蓮ちゃんだよな？」 にじりにじり

秋長谷…「え、あ、いや」

山田…「私だよ？ 忘れちゃったの？ ねえ？」

秋長谷…「……覚えてる、よ」

山田…「よかったつ。蓮ちゃん生きてたつ」と思わず昔のようにだきしめますね(\*22)

山田…昔と違うのは前は抱え込むようだったのが、今は逆になっていること。

ニアン…「お？ お？ 蓮ちゃんそんなカワイイ顔もするの？ 普段はあんなくーるびゅーていな感じの態度してるの？」と後ろで3人ぐらいに分身して煽ってます

秋長谷…「ひう」(ニアン後で殺す…)

ニアン…こ、殺される…

楸…「おしりあ——」この時勝輝に電流走る。

楸…ししょー曰く。

楸…こういう時は下手に触らず「見」に回るが吉である。(\*23)

楸…曖昧な表情で頷きながら顛末を見守る。

山田…ひとしきり抱きしめて満足した後解放しますね

秋長谷…「あ」

山田…「いろいろ聞きたいこと…三年間どこにいたとかあるけど…今は役目をこなさないかね」

山田…「昔みたいにな…頼りにしていいんだよね？」

山田…と下から覗き込みましょう

秋長谷…「…スー、ハー、スー、ハー」深呼吸

秋長谷…覗き込まれてるのから目を逸らして

秋長谷…「すまない、勝輝少年。待たせたな。サトルを追おう」

楸…「あつ、は、はいっ！」

山田…「むー」 不満そうにほっぺふくらませるが異論はないので何も言わない ぶくー

秋長谷…「ニアン。ゆー…山田さんも引き続き協力をお願いします」(\*24)

山田…「もちろん。というかもともと私が調伏できなかったからだだね。みんなのお力お借りします」

楸…「…どうにも、今回の事件ソイツが犯人っぽいですから。皆で協力してとつちめてやりましょう！」

秋長谷…「ああ、行こう」

九十九…「あ…！！ そつ、それなら！」

楸…「おつ、どした奈々！」

九十九…「楸！ これ！」とカバンからノートを引き出し、机に広げる

GM…「いくつかのオカルト雑誌のコピーや印刷物にまぎれて

GM…「サトルくん」に関する書き込みや記事が並べられる

楸…「……！ これ、例のアイツの！」

九十九…「うん…もともと、あたしがサトルくんを呼び出すためにいろいろ調べてたから……」

九十九…「たぶん…いや、あたしにも責任がある」

九十九…「こ…怖いから…たぶん、一緒にはいけない、けど……」と目を伏せ

九十九…「…でも、これ！ こういう情報なら、いくつか心当たりがあるの！」

楸…「……奈々」

楸…「すつつつげー助かる!!」

楸…「マジであんがとな！」

九十九…「だ……」

九十九…「だっしょー!?」

九十九…「いやあ美少女二人が感動の再開していつ口を挟もうかもう悩んで悩んで……！」  
九十九…「あついや！ 全然！ 悪い気はしなかったんですむしろいいものみたから！」

秋長谷…「……」顔真っ赤にさせて俯く

九十九…「そう！ お邪魔にならないよう情報提供するにはどうすりゃいいの……！！」

山田…（後ろでごまかすようにてへへと笑っている）

楸…「すみませんうちの奈々が」

ニアン…「いやあこれなら情報収集もしやすいぞ。って訳でゆーたん蓮ちゃんはもうちよつとイチャイチャしても良いのよ？」

九十九…「そうそう！ メイドさんの言う通りッスよお！」

秋長谷…「うるしゃい」

ニアン…「かわいい」

楸…「すみませんうちのアホ奈々が……」（\*25）

山田…「気持ちだけありがとうね。今は奈々ちゃんが集めてくれた情報をもとにあいつを探さないと……いや理解しないと」

山田…「いくら剣で切っても手ごたえがなかった。きつと何かからくりがある」

楸…「……そうっすね、アイツの情報少しでも見つけないと！」

戦闘と邂逅を終え、ひと段落付いたところで、各自がこれまで入手した情報を交換し合うカミガカリたち。

久代市の各所で被害が報告されている事、その対象はどうやらランダムではないらしい事……。

秋長谷…「やべーぞテロだ」

山田…「キーになりそうなのは携帯電話がらみで山岳、あとは土蔵に資料があるかも？ でしょうかね」

山田…「とりあえず解決まで市内全域の携帯電話止めたい……」

山田…「ですよねー」

ニアン…「そういえばツクモちゃんとやら、君はサトルヌス君を予めどういう存在だと聞いてたんだい？」

九十九…「さてゆ……？ あ、ああ、サトルくんですわね？」

九十九…「ええと、あたしはアレを『都市伝説』として知りました」

九十九…「結構前からある都市伝説で……一番古いパターンだと、たしか公衆電話で話を聞くんだっただけかな」

九十九…「……正直、細かい話は覚えてないッス！ ごめんなさいメイドさん！」

ニアン…「いやいやいやーよ。じゃあ質問を変えよう、サテュロス君は願いを叶えてくれるとかって感じな訳？」

秋長谷…「……私から言えることはだ、奈々少女」

九十九…「そうそう！ いわゆるサルの手に似た……あ、はい！」と秋長谷さんに向き直る

秋長谷…「今後都市伝説には近づかないようにな。君も勝輝少年が危険に巻き込まれるのは本意で

はなかるう」

秋長谷：「勝輝少年も、同じ考えの筈だ」

楸：「……………俺はいーすけども。お前、またこういう事に巻き込まれるかもしれねーんだからな！」

楸：「次に『マジ』があったとして……………その時もすぐ駆け付けられる、なんて限らねえんだから」

ニアン：「ほんとに、一体どこに**邪悪な存在**が眠っているんだか分からないんだから、もう悪いことをしてはだめだぞ」

九十九：「……………うん、ごめん、反省してる」

ニアン：「にやり〜ん」

九十九：「あ……………あれ？ 今なんか……………？」

山田：「(やっぱり気のせいじゃないよね)」

ニアン：「(気のせいですにゃん)」

秋長谷：「気のせいだ」(記憶処理するし)

楸：「気のせい気のせい」

九十九：「そ、そうかな……………そうかも……………」

九十九：「あつ、そうだ、メイドさん！」

ニアン：「なんで？」

九十九：「あれ、アタシは覚えてないけど、こういうのを調べる場所は知ってます！」

ニアン：「ほんとに？ いや**あ助かるなあ最近の怪異の場所は疎くてさー**」

九十九：「隣のちっちゃい古書店なんすけど、実はオカルト系に強くて……………」

楸：「如何にも、って感じの場所だな」

九十九：「あ、それからサトルくんを調べるときに使ったのが、この図書館の……………」

ニアン：「ふむふむ、とメモをしていくよ。**文字はニアンぐらいにしか読めない多言語が混ざった冒険的なオオサカベン**だけだ

GM：「やはりオオサカの住民……」

秋長谷：「貴重な情報ありがとう奈々少女。では皆、二手に分かれて情報を収集し、サトルを滅するぞ。——散開！」

楸：「ラジャっす！」

山田：「了解」

ニアン：「はーい」と猫バスを頭に載せていきますか 正直ゆーたん任せで行けそうだけど……」

九十九からの提供もあって情報の整理を終えたカミガカリ一行は、新たな手がかりを求めて最後の情報収集に挑むことに。

まずは「情報8」アラミタマの正体：【精神】／目標値12」について、山田が霊紋を燃やしつつ堅実に成功。

## ○情報8

アラミタマの正体と思しき存在に心当たりがある。

それは「さとるくん」と呼ばれる都市伝説の怪異だ。その怪異が、なんらかの理由で邪神化したのだろう。従来は公衆電話と携帯電話を媒体にした存在だが……この事件ではメールを利用していろいろだ。

山田…でもあれだねモバイル使うとまた乗っ取られそうで連絡がこわいね

ニアン…じゃあ私が走って伝えに行こう

GM…これがローカルネットワークか…

山田…新しい怪異がうまれないといいけど 爆走メイドさん

ニアン…ひと昔前ならインターネット通信より新幹線の方が早かったんだけどなあ

続いて楸が物理超越を2個分行う気合の調査で

「[情報7] 被害者の共通点：【知性】／目標値12」を暴く！

## ○情報7

被害現場に残された被害者のスマートフォンには、九十九奈々からのメール送信履歴が、必ず2通存在する。

1 通目の内容はいずれも、被害者の悩みに対する返答。もう1通の内容は黒い紋様の画像が添付された空メールだ。

この黒い紋様は、〈供物の極印〉と呼ばれるアラミタマのマーキングだ。この画像を見た一般人は知らぬ間に自身に印を刻まれ、ラルヴァに狙われる仕組みらしい。

なお、PC①(楸)はカミガカリなので、その霊魂を狙われ、即座に襲われたのだ。

GM…そしてすべての情報を集めたことで、今回の真相が判明します

## ▼「真相」

奈々は超常の力に憧れるあまり、都市伝説が邪神化した存在——アラミタマ「サトル」と《魂の契約》を交わし、携帯電話を媒体とした予知能力を手に入れた。

そして、彼女の占いを媒介にして犠牲者たちに極印を刻み、ラルヴァに襲撃させ、その霊魂を集めていたのだ。

狡猾な「サトル」は山田などを警戒して、どこかの土地に《霊力結界》を展開し、潜んでいる。

その土地は電話を媒介とする邪神「サトル」にとって最も都合の良い場所であり、彼女と由縁のある場所だろう。

その場所は奈々の親友である楸が知っているはずだ

九十九…「と、いうことで！ 皆さんが集めてくださった情報がまとめると」

GM…先ほどのノートに赤ペンで線を引き、九十九は大きな文字で地図記号を描く

九十九：「サトルくんの本拠地は、この「基地局」であると思われます！」

楸：「あー、奈々が良くUFOと通信だ！とか言ってたむろしているあそこか」

九十九：「そうそう！　楸が思い出してくれたから思いついたんだよこの場所のこと！」

ニアン：「UFOじゃなくて電話を介した怪異と接触してしまった訳か。まったく、UFOぐらい私に行ってくれば連れて行くぐらい出来たのに」

秋長谷：「思い出さなかったら今回の事件は起きていないと…」

ニアン：「逆に言えば思い出さなければサトミタダシ君は偶然我々の前に姿を現すようなことは無かったとも言える」

九十九：「それ薬局！」

楸：「よく知ってるな…」

ニアン：「ヒットポイント回復するなら傷薬と宝玉で♪　と後ろで謳ってます

山田：「事件の責任をとうなら最初に取り逃がした私が悪いので…。罪は討伐することであがなつて見せます」

九十九：「み、巫女さんが格好いい……………」

山田：「みっともないだけですよ…。本来は適任者に交代すべきなのにこうして居座っていますし」

山田：「自嘲気味に困った顔で笑いますよ

秋長谷：「居場所は分かった…。終わらせに行こう」

山田：「ええ。それが私のお役目です」

楸：「はい。こんな傍迷惑な奴、とつととつちめちゃいましょう！」

ニアン：「準備は出来てるかい？　ハンカチと水筒はちゃんと持ってる？」

九十九：「つと、ここの基地局まではバスと歩きで…。30分くらいになります」

九十九：「携帯は真つ二つになってるので喫茶店の時刻表をお借りして調べる女。（\*26）

九十九：「山の頂上ですから…。でも今から行けば、夜になる前には行けると思っています」

秋長谷：「十分だな」

山田：「車はあるからそれで行けるところまで行きましょう。…たぶん途中で歩くしなくなるだろうけど」

九十九：「おお、お車があるとは！　それなら楽ができますぜ！」

楸：「漫画の三下かってーの。それじゃ、行っちゃいましょうか！」

九十九：「あんな奴やつつけちまってくだせえよダンナアぐへ！」

九十九：「…気を付けてね」

秋長谷：「…勝輝少年のガールフレンドは個性的だな」

楸：「んなっ!?　そ、そんなじゃねえって!!」

ニアン：「なーに私が立派に肉盾になってやるから安心したまえムハハハ」

楸：「……こほん」

楸：「ま、アレだよ奈々」

楸：「心配すんなよ。俺は必ず帰ってくつから！」

ニアン…「だから…帰ってきたら結婚しよう」と裏声で  
九十九…「ぶほッ!」

九十九…アイステイーを噴き出す。

秋長谷…「殴っていいぞ勝輝少年」

楸…「うっす」

山田…「殴った手の方が痛くなりそう」

ニアン…「すんません許してつかあさい何でもはしないけアバーッ!」

九十九…「戦いの前に内輪もめしたらダメだよ!」

秋長谷…「これは相互理解のコミュニケーションだから大丈夫だ奈々少女」

楸…「そんなじゃ行きましようか」

秋長谷…「ああ」頷く

山田…「まいりましよう」 頷く

ニアン…「行くとしましようか、猫とその眷属たる人類の平穩の為に」

(\* 21)

ニアン…「しつかしまあ永遠の暗闇とかおっそろしいこと言うよなあ。白痴の王でも起きるのかしらん」(編者注ここで立ち絵が変わる)

秋長谷…「本性出てるぞ」

ニアン…「気のせいですにやる」

山田…「は!」 今何か黒いのが

秋長谷…「気を付けろよ」

ニアン…「はーい」

(\* 22)

楸…「ししょーは言っていました」

楸…「人間関係は複雑ですね? 下手に入って深度4の火傷負っても自業自得です」

楸…「だから俺は「見」に回ります」

GM…「重症すぎる…」

山田…「致命傷だよ!」

ニアン…「死んじゃうよお!」

(\* 23)

秋長谷…「ゆーおねーちゃんだけ苗字で呼んでる所がポイント」

山田…「うん ポイント」

ニアン…「カワイイ」

楸…「かわいい」

秋長谷…「こいつ吹けば飛びそうな壁作るな…」

(24\*)

山田…こんな業界だからね…死んでるかもしれないと不安なのです

秋長谷…一家惨殺はゆーおねーちゃん知ってるだろうしね

秋長谷…(消息不明になる蓮)

山田…多分引き取って一緒に暮らそうとしたらいなくなってたパターン

(\*25)

九十九…アホアホ言うのはいいけどさあ……

九十九…ひと段落したら、こんな美少女集団と、どうやってコンタクト取ったのか教えろよな！

楸…気が付いたら…なんか…

楸…飛び出てきた……

九十九…楸はごまかし方がヘタだなあ！

楸…嘘じゃねえんだよ！信じてくれ!!

ニアン…いきなり**実際窓ガラスとか結界とか割って大挙してきた訳よな**

秋長谷…太鼓判押ししてあげよう

秋長谷…と同時に勝輝少年は大変君のことを心配していたから君も勝輝少年を大切にするんだぞと告げる

秋長谷…自分の家族全員殺された蓮ちゃん的には自分の大切な人を守るかどうかってのはかなり重要ですよね 頑張ってるね

楸…お…重い……

九十九…受け止めきれない…！

(\*26)

山田…こわしちゃってごめんねー

GM…緊急措置ってやつだ

ニアン…やるしかなかったとは言え**携帯ぶっ壊れたら実際大変よな**

GM…こういうのもトクタイがお金出したりしてくれるんだらうか…

山田…隠ぺい工作の一環でてるんじゃないかなーです

山田…記憶操作しても携帯ないとおかしいことになるでしょうし



▼シーン7…鋼の塔に棲む邪神

シーンプレイヤー…楸 勝輝

イベント…法則障害

キミたちは奈々の情報をもとに、

久代市山岳地帯の山頂付近にある携帯電話の基地局へと辿り着く。

深い森の奥にたたずむ白い鋼の塔は……どこかしら歪さを感じさせるものだった。

この基地局に……おそらく「サトル」が潜んでいる。

GM…ということで早速ですが

GM…全員「察知」判定だ！

「察知」判定は「法則障害」を見破るための判定。

成功すればその地に施された禁呪の詳細が判明するが、さて。

秋長谷…3D6+7

【幸運】「探索・察知・直感・諜報」

△BCDice…秋長谷 蓮▽: Kamigakari: (3D6+7) ↓ 10 [2,3,5]+7 ↓ 17

楸…17 かー、どちらも抜けていそうな数値ではある

山田…17 あれば十分かな 普通にふりますね

秋長谷…まあ悪いようにはならんでしょ 変更もなしで

山田…2D6+2+1

【幸運】「探索・察知・直感・諜報」

△BCDice…山田 優子▽: Kamigakari: (2D6+2+1) ↓ 10 [5,5]+2+1 ↓ 13

山田…変更なし

楸…2D6+2

【幸運】「探索・察知・直感・諜報」

△BCDice…楸 勝輝▽: Kamigakari: (2D6+2) ↓ 6 [3,3]+2 ↓ 8

ニアン…2d6+5 幸運

△BCDice…ニアン・ゲーンスイ▽: Dice Bot: (2D6+5) ↓ 12 [6,6]+5 ↓ 17

楸…!?

ニアン…あつ

秋長谷…クリティカル出たわ

GM…さす邪神

山田…これがメイド力…

ニアン…じゃあニアンが首を360度回転させたりしていると見つけました

山田…「!?!」 き、気のせいよね…うん」 何か見た気がしたけど見なかったことにした

クリティカルを出したニアンに加え、

素の目目で察知した秋長谷の2人によって暴かれた「法則障害」(\*27)は「次元の扉」。  
放置しておけばボス配下のモノノケが有利な場所に位置取るばかりか、

例えどんな状況にあっても、宣言一つでボスが瞬時に逃走してしまうという厄介な代物。

GM…では、お二人は基地局の周囲に奇妙な文様を見つけてるでしょう

GM…それは、先ほど携帯の画面に浮かび上がっていたそれと同じ。

GM…どうやらサトルは、この文様を通じての移動が可能だったようです

秋長谷…「転移のための魔法陣…か、潰しておかないと逃げられそうだ」

楸…「標的になった人は…：占いを介して、この文様を配られてた」

楸…「それ伝いに移動してたから、優子さんからも即逃げられたってことか…：めんどっちな！」

ニアン…「なるほど、標的はこれによって餌になるだけでなく、更に広範囲に手を伸ばす手段にも出来た訳だ。呪いのチェーンメールだなんて随分今風じゃないか」

山田…「いつも手ごたえがなかったのは、この術のせいだったのですね」

危険な術式ではあるがしかし、ネタが割ればこっちのもの。

カミガカリたちは発見した法則障害を「突破」か「消去」(\*28)によって打ち破ることが出来る。

…：となれば後は実行あるのみ。

相談の結果、霊紋の回復量とペナルティの軽さを考え、今回は「突破」を選択することに。

山田…「これでもう…：逃がしませんからね」

ニアン…「こういうものを冒読する際には深淵の間によって塗りつぶすと良いんだ。無ければごは  
んですよでも構わないが」

秋長谷…「雑にやるなら踏み荒らすだけでいい」

楸…「よい…：しよつと！」

GM…では、各々のやり方で黒い文様を次々と無効化してゆく

GM…これで移動手段は封じただろう…：が、同時に

GM…あたりの雰囲気有一段と異様なものへ塗り替わってゆくのを感じる

GM…文様を破壊したことで、自分たちの存在が無効にも感づかれたのだろう

山田…「呼び鈴代わりになったようですね。もうどこにも逃げられませんけど」

ニアン…「しかし、そもそも大した信仰も持たない都市伝説がアラミタマ化してそのまま強度を  
保っているというのも不可思議な話よな。それがちょっと転移出来るだけの印だけで保てるかな」

秋長谷…「…：発生してから結構な時間が経っているからな」

楸…「成長するには、丁度良いくらいの期間はあった…：のかも」

秋長谷…「その時は矮小でも時間をかけ靈魂を貪ればそれなりにはなる」

山田…「まだ何かある、ということですか」

秋長谷…「少なくとも…：寄生先を取り込んでもいいと断じる決断ができるまでに成長したのは、

事実だ」

楸…「………靈魂を集めれば、どんな奴でも強くはなりますからね」

ニアン…「ゆるたん正解。サテライトキャノン君が成長したって言っても、結局皆にしばかれたら撤退しなきゃいけない程度だった。逆に言えばその程度の存在なのに宿主を取り込むことを目論めるぐらいには形を保っているんだ、まだ何か悪さ出来る手があるのかもしれないよ」

山田…「………もつと私が早く……いえ一人で討伐できていれば」と後悔がよぎるけどぐつとかみしめてこらえる。いまは退治することが優先だ。

ニアン…「まあ要するにまだまだ気は抜けないよってことだよ。殴られてみそ零すの私なんだから」

秋長谷…「まあどの道……今夜で終わらせる話だ」

山田…「前に進みましょう。警戒しながら」

楸…「はい！」

……一行の予想を裏付けるかの如く、鉄塔を目前にして、カミガカリたちは再び怪しい魔術の気配を感じ取る。

現れたのは2つ目の「法則障害」。とはいえ靈紋を回復したカミガカリ達の敵ではなく。物理超越を使い「魍魎の巢」を発見する。

特定のモノノケなどを生み出し続ける「法則障害」である「魍魎の巢」は、「突破」を選ぶと最終戦闘に増援3体が追加される、これまた面倒な呪術。

秋長谷…増えるのは嬉しくないな……ここは消去したい

山田…ダメーじやペナルティも痛いですしね

楸…知性……なのが手痛い所でも12ならいけるかな

秋長谷…インテリジェンス君の出番だ

看過できるデメリットではない、ということ「消去」を選択！

必要な条件は「全員で【知性】12」の判定に成功する、というもの。

確実に解除したい一行は「神器能力インテリジェンス」(\*29)を発動。

レガシーユーザーである秋長谷・山田がそれぞれ【知性】に有利な修正を得たうえで……

秋長谷…インテリジェンスで+2して……燃やそう

秋長谷…1D6 靈紋消費

△BCDice…秋長谷 運▽: Kamigakari: (1D6) ↓ 2

秋長谷…3D6+3 【知性】「偽装・知識・鑑定・識別」

△BCDice…秋長谷 運▽: Kamigakari: (3D6+3) ↓ 11 [2,4,5]+3 ↓ 14

秋長谷…交換なし 成功

山田…んー 1d分燃烧しますー

山田…1D6 靈紋消費

△BCDice：山田 優子▽：Kamigakari：(1D6) ↓ 6

山田：3D6+1+2+1+1 【知性】「偽装・知識・鑑定・識別」

△BCDice：山田 優子▽：Kamigakari：(3D6+1) ↓ 8 [2,3,3]+5 ↓ 13

楸：霊紋を…燃やす！

楸：2D6 霊紋消費

△BCDice：楸 勝輝▽：Kamigakari：(2D6) ↓ 9 [4,5] ↓ 9

楸：4D6+1 【知性】「偽装・知識・鑑定・識別」

△BCDice：楸 勝輝▽：Kamigakari：(4D6+1) ↓ 8 [1,1,3,3]+1 ↓ 9

楸：アゝゝ

楸：(放送禁止用語) 出目1と霊力5を交換して成功させます

ニアン：1d6 霊紋燃焼

△BCDice：ニアン・ゲーンスイ▽：Dice Bot：(1D6) ↓ 3

ニアン：3d6+1

△BCDice：ニアン・ゲーンスイ▽：Dice Bot：(3D6+1) ↓ 12 [6,5,1]+1 ↓ 13

一部危険な状態に陥りこそしたものの(\*30)、何とか判定には成功！

山田：祝詞をあげて蜘蛛の巣をもやしましょう

ニアン：自分を狙って飛んできたクトゥグアの火を直撃させます

GM：各々の秘法を用いて法則障害を打ち破った一行。

GM：その目の前に飛びえ建つ鉄塔からは、禍々しい空気が漏れ出している

GM：あと一步踏み出せば、おそらく全員が結界の中へ突入することになるだろう。

秋長谷：「これで面倒な障害は全て消えた」

ニアン：「ちゃんとトイレは済ませたかい？ 戦闘中に漏れそうになっても知らないぜ？」

山田：「ニアンさんが守ってくれるのでしょうか？ でしたら大丈夫です」

楸：「……後は、中の本体をブツ飛ばすだけ！」

秋長谷：「そうだ。行くぞ！」

ニアン：「さあて行くこうか。皆、私の脳みそが全部零れ落ちる前にちゃんと相手を殴り倒してくれよ？」

山田：「私が殴りなおすまでしっかり脳みそ保ってくださいね」

GM：では、君たちが一步、踏み出すと

GM：「サトル」の《霊力結界》へと踏み込んだ。

(\* 27)

邪悪な超常存在が引き起こす怪奇現象。基本的にどの組織でも禁忌扱いであり、これを引き起こした術者は処罰・抹殺の対象となる。  
システムのにはPCを妨害し、術者⇨ボスを強化する障害物。  
PCはこれを発見した後、判定を行って「消去」するか、ある程度のデメリットと引き換えに判定なしで「突破」するかを選択できる。

(\* 28)

「突破」は強引に法則障害を破壊する方法で、PC全員が【靈紋】を5点回復した後ペナルティを負い、術者が強化される。判定はない。  
「消去」は儀式などによって法則障害の脅威を取り除く手法。  
指定された【主能力値】判定を「必要人数」だけ成功させることで消去に成功する。  
「必要人数」に満たなかった場合、突破と同じくペナルティを負い、術者が強化される。  
いずれの選択でも「法則障害」は消滅し、シーンは進む。

(\* 29)

レガシーユーザーのみが持つ特殊な装備品、「神器」に備わっている能力の一つ。神器そのものが優れた叡智を有していることを表し、システム的には【知性】【精神】判定に有利な修正が入る。

(\* 30)

楸…やっぱダイスなんて信じねえ！  
秋長谷…今見たけど勝輝少年の霊力凄いな…  
楸…ぐちゃぐちゃになった霊力さん綺麗なの…  
GM…やめやめろ！

山田…それはアラミタマからの誘惑ですよー!? >綺麗  
ニアン…それはよくない

▼シーン8…願いの神

シーンプレイヤー…山田 優子  
イベント…最終戦闘

内部の上空は、極彩色に輝く巨大なデイスプレイに覆われており、そこに罵詈雑言が表示されては流れてゆく。

そして、基地局の塔の上に……目の白黒が反転した学生服姿の少年——アラミタマ、サトル”の姿が！

サトル…「クッ……とうとう見つかったか！」

サトル…「まあいい。あのバカ女のおかげで靈魂はそれなりに集まった。ここで決着をつけてやるぞ！」

ニアン…「とうれいとべいべ〜♪ いつとうれいとべいべ〜♪ とうれいとくらあい♪ いつとうれいとべいべ〜♪」と暢気に歌を歌いながらその場に現れます

ニアン…「猫に手を出さなかったことは褒めてやろう。しかし私の断りなく猫の眷属たる人類種に手を出したことは万死に値するよ」

秋長谷…「実物は初めて見たが、小者だな……」

山田…「決着をつけるのはこちらのセリフです。もう逃げられません」 剣を構えて「滅せよ、アラミタマよ。この地に汝の場所なし」

楸…「……お前」

楸…「アイツがどんな想いで占い始めて、お前のせいでどんな思いしたと思ってんだ……！」

サトル…「……ふん、せいぜい囀るがいいさ」

サトル…「居場所ならあるさ……ちよつと欲望をあおってやれば、ヒトの心にいくらでも忍び込める」

サトル…「どんな思いをしたか、だと？ それを知らずにあんな方法を取ると思うのか？」

サトル…「最高の気分だったぜ、まったくあの連中には笑わせてもらったよ！」

サトル…「……ネコ、ああ、あの原始的なイキモノども！」

サトル…「いずれは奴らにも、わが御力を示さなくてはな……ま、それも人間どもの後でいいさ」

楸…「そうかいそうかい」

楸…「……ブツ飛ばす為の理由が出来て助かったよ」

秋長谷…「……囀りは済んだか？ サトル。随分長い囀りだったな」

秋長谷…「糧にするのは——私だ。お前達アラミタマを狩り続け、強く、どこまでも強くなり……必ず母さんと父さんの無念を晴らす」

サトル…「……何処までも腹立たしい連中だな」

サトル…「キミたちの靈魂を喰ったら、この基地局を本格的な拠点にするというのも悪くない！」  
サトル…「そうだ、チェーンメールというヤツを利用すれば……少なくともこの国の人間の靈魂をほとんど喰えるかもなあ！」

そう叫ぶや否や、〃サトル〃の肉体に稲妻が奔った。

閃光の中、肉体が変異する不気味な音が響き渡る。

カミガカリたちが眼を開いたとき……〃サトル〃の姿はディスプレイの頭部と人間のような腕を持つ、機械仕掛けの百足に変異していた！

基地局の鉄塔に絡みつく巨大な異形は鎌首をもたげながら機械音で絶叫する！！

サトル…「食らいつくしてやるぞ、カミガカリどもがア！！」

ニアン…「……It's too late って訳だ」

ニアン…「——もう君は泣き喚こうが、戻れない」

山田…「まいますっ」

▼最終戦闘

	1	2	3	4	5
A			☆		
B					
C					
D		■		■	
E	■				■
F					
G					
H		△	△	△	
I		△	△	△	

☆ … サトル  
 ■ … ラルヴァ×4  
 △ … PC初期配置

配置を終え、サトルの「識別」も秋長谷が霊力を交換しつつ成功。「開始」はニアンが《結晶装着》を使用して、両陣営のセットアップは完了！割と高いボスの行動値を抑え、一番手に立ったのは秋長谷！

秋長谷…準備で戦闘移動

秋長谷…ではここから太刀風 3と4を消費して……

秋長谷…対象をラルヴァACE

秋長谷…1D6 霊紋消費

△BCDice…秋長谷 蓮▽: Kamigakari:(1D6) ↓ 1

GM…やっす！

山田…クールです

秋長谷…特殊攻撃になるので看破を使って貰う…11だったな

秋長谷…3d6+6▽|| 11 命中

△BCDice…秋長谷 蓮▽: Kamigakari:(3D6+6▽|| 11) ↓ 6 [1, 2, 3] + 6 ↓ 12 ↓ 成

功

秋長谷…概念破壊ー

ラルヴァ×4 A…ウワーツ！

ただでさえ避け難い「特殊攻撃」に加え、霊紋を消費してダメージランクを上昇させる「概念破壊」も乗せた一撃は47点を叩き出し、ラルヴァたち3体は瞬殺！

秋長谷…無造作に振りました槍から巻き起こる風がラルヴァを引き裂く

秋長谷…「道は開けた……任せただけ皆」

山田:「っっっ」 槍の間をぬって剣を持った少女がはしるー

続いてボスと同行動値の山田がサトルに隣接するマスへ躍り出る！

サトルがボスタレント《荒ぶる神性》(\*31)を所持していることから、発動条件である【生命力】



200点を下回らないよう、力をセーブしつつ削る作戦に。

山田：記憶再現で「霊力爆縮」を使ってダメージ+10

山田：C(5\*1+17+10) 物理攻撃

△BCDice：山田 優子▽：Kamigakari：計算結果 ↓ 32

山田：ちょうどいい塩梅

サトル：C(242・(32・6)) 物理ダメージ

△BCDice：サトル▽：Kamigakari：計算結果 ↓ 216

サトル：微妙に《荒ぶる神性》を発動できねえ！

秋長谷：良い割りだ ありがたし

山田：ランクあと一つくらい乗ればよかったかな まあいいや

ギリギリでパワーアップを防がれたサトルに手番が回る！

まずは広範囲に「武器攻撃」をばらまく《死の烈風》を使い、レンジから外れている楸以外の全員に物理攻撃！

命中は固定値を使用して15。これに対してカミガカリたちは……

山田：2D6+7 【回避】

△BCDice：山田 優子▽：Kamigakari：(2D6+7) ↓ 9 [4,5]+7 ↓ 16

山田：よけたー

ニアン：2d6+6▽15 回避

△BCDice：ニアン・ゲーンズイ▽：Dice Bot：(2D6+6▽15) ↓ 10 [5,5]+6 ↓ 16 ↓ 成功

ニアン：回避した

秋長谷：15か…結構避けれんな

秋長谷：2d6+5▽15 回避

△BCDice：秋長谷 蓮▽：Kamigakari：(2D6+5▽15) ↓ 8 [2,6]+5 ↓ 13 ↓ 失敗  
秋長谷：うーん6かあどうしようかな… うーむ…いやいいか

秋長谷：とりあえず自分の霊力2と出目6交換しとく

山田：ニアンは回避成功。秋長谷は失敗したものの6の目を確保！

ダメージは期待値やや下振れの27点。装甲有効ということもあり、2点軽減して25点の物理ダメージが秋長谷に入る！

サトル：では食いちぎった鉄塔を無差別に投げまくる物理攻撃

山田：「蓮ちゃん!？」

サトル：「ちっ……この程度ではろくに当たらんか!」行動終わり!

秋長谷：「げほっ……」。大丈夫だよーねーちゃん」

山田：「蓮ちゃん…かつこよくなったと思ったけど、強がりなところは変わらないんだね」  
秋長谷：「……あ！今の、わ、忘れて……」

山田：「忘れるわけないでしょ。蓮ちゃんのことなんだから」

秋長谷：「あうう」真っ赤

山田：「まってね。すぐにコイツ倒してけがの手当てして…三年分のお茶会しようね」

秋長谷：「い、今は戻れないから。戻っちゃいけないから……昔には」

秋長谷：「ごめんなさい……」

山田：「本当に…強がりなんだから」

続く行動値の楸は位置取りを考え、今は攻撃が届かないことを確認して「待機」を宣言。行動値をニアンの次になるよう調整する。

手番が回って行動者はニアン！

ニアン：では漆黒の鉄騎でサトルまで戦闘移動後に殴り申す

秋長谷：ゆーこちゃんの真下だねー

山田：私にくっつけば近接状態で殴れますものね

秋長谷：広がる近接状態

「戦闘移動」後に攻撃を行うことのできる「射撃移動4マス」の武器、戦闘バイクで山田のすぐ下に移動し、サトル・山田・ニアンの3マスからなる「近接状態」を形成、後続の楸が動きやすい状態を作り上げると……。

ニアン：1d6 物理超越1つ分で霊紋紋章

△BCDice：ニアン・ゲーンスイ↓：Dice Bot：(1D6) ↓ 1

GM：安い！

ニアン：3d6+4

△BCDice：ニアン・ゲーンスイ↓：Dice Bot：(3D6+4) ↓ 7 [1,3,3]+4 ↓ 11

ニアン：1を6と変更

ニアン：今の所やたら軽いし概念破壊も乗せちゃう

ニアン：2d6 消費

△BCDice：ニアン・ゲーンスイ↓：Dice Bot：(2D6) ↓ 8 [4,4] ↓ 8

ニアン：1d6 ランク

△BCDice：ニアン・ゲーンスイ↓：Dice Bot：(1D6) ↓ 3

山田：悪くない出目です

ニアン：ではナイトゴーストに乗って来たニアンがサトルの頭らしい部分にシャイニングウイザードを叩き込みます

サトル：「ッあッ！！」大ダメージ

概念破壊も乗って37点の物理ダメージ！

これで【生命力】が200点を切り、サトルが本来の姿を取り戻し始める……。

サトル…「く……く……く……やってくれるじゃあないか、ええ？」

ニアン…「私のこの貧弱な身体での攻撃が効くとは、雑魚だね君は。人間は一撃で私の首を落としてみせたよ？」

サトル…「減らず口を……だが！　ようやく体がこなれてきたところだ……」

サトル…「それでは特別に！　我が神髄をお見せしよう！」

2回攻撃に加えダメージが常に+2 d 6点と処理的にも面倒な強化を果たし立ち塞がるサトル。これを迎え撃つのは楸！

楸…では準備で《影砕き》を使用　コストは5・6

楸…そしてサトルに対して状態変化…転倒付与

楸…命中と回避　2、移動力半減は痛かろう…

GM…ぐえー！

楸…そんなもって武器攻撃！　物理超越+1！

楸…1 D 6 霊紋消費

△ B C Dice … 楸 勝輝▽ … Kamigakari … (1 D 6) ↓ 2

楸…3 D 6 + 9 【命中】

△ B C Dice … 楸 勝輝▽ … Kamigakari … (3 D 6 + 9) ↓ 13 [3, 4 6] + 9 ↓ 22

楸…概念ブツ壊していきまーす

楸…2 d 6 コスト

△ B C Dice … 楸 勝輝▽ … Kamigakari … (2 D 6) ↓ 6 [1 5] ↓ 6

楸…1 d 6 増加ランク

△ B C Dice … 楸 勝輝▽ … Kamigakari … (1 D 6) ↓ 6

楸…ワハハ

秋長谷…ヒューー！

ニアン…わぁ

サトル…オゲーツ！

楸…まだまだあ！

楸…霊力操作、5を6に！

楸…まずは百烈技！　ダメージ+6！

楸…さらに天地功！　ランク+1！

楸…どっちも残った6を使うッ！

命中判定の出目は6！　《天地功》と概念破壊によるランク上昇は+7！

《百烈技》によるダメージ上昇も加えたその威力は……

楸…C(6\*8+17+6) 物理攻撃

△ B C Dice … 楸 勝輝▽ … Kamigakari … 計算結果 ↓ 71

楸……腰を落とし、一步、二歩。踏み込んで。

楸…影に混じり、死角より不意の一撃を喰らわせる。

楸…「せ、え……のッ!!」

楸…霊力を込めたその一撃は、アラミタマへと深く、深く。

サトル…「バ、バカな……これほどの威力が、こんなチンケな人間に……ッ!」

山田…(すごい。私とは違う…己の肉体を鍛錬によつて練り上げた一撃…。この子天才よ) その

一撃に目を見開きましよう。

ニアン…「いや、人類種だからさ」

サトル…「おの……れえええええ!!」

強烈な一撃をモロに喰らい、その生命力を半分以下にまで削られてしまう!

「転倒」による弱体化も響く中、残ったラルヴァたちはカミガカリの攻撃に走る!

既に「近接状態」な上、知能も「通常」のラルヴァは2体とも秋長谷に攻撃を仕掛けるが。

ラルヴァ×4 B::C(5+7) 【命中】

△BCDice::ラルヴァ×4 B▽::Kamigakari: 計算結果 ↓ 12

秋長谷…2d6+5▽=12 回避

△BCDice::秋長谷 蓮▽::Kamigakari:(2D6+5▽=12) ↓ 11 [5,6]+5 ↓ 16 ↓ 成

功

ラルヴァ×4 B::ギャーツ!

楸…ナイス回避!

秋長谷…いいねー霊力3と出目5交換

秋長谷…成功変わらず 次どうぞ

ラルヴァ×4 D::同じことをもう一度だ!

ラルヴァ×4 D::C(5+7) 【命中】

△BCDice::ラルヴァ×4 D▽::Kamigakari: 計算結果 ↓ 12

秋長谷…2d6+5▽=12 回避

△BCDice::秋長谷 蓮▽::Kamigakari:(2D6+5▽=12) ↓ 7 [2,5]+5 ↓ 12 ↓ 成功

秋長谷…出目2と霊力6交換 成功

ラルヴァ×4 D::これがあるから6の目を持つてる奴は嫌なんだ!

秋長谷…このためにさつき6を貰ったんだ

山田…なるほどです

どちらも回避され、これで第1ターンは終了!

第2ターン最初の手番は秋長谷だが、霊力の調整も兼ねて16まで行動値を落とし、手番は山田

へ…!

山田…破神秘奥 で物理攻撃

山田…いきますー

山田…1D6 霊紋消費

^BCDice::山田 優子▽::Kamigakari:(1D6) ↓ 6

山田…きゃー

サトル…ガツンと減ったなあ…

ニアン…**霊紋消費が重い**…

山田…とりあえず命中判定ー

山田…3D6+6 【命中】

^BCDice::山田 優子▽::Kamigakari:(3D6+6) ↓ 13 [1,6,6]+6 ↓ 19

山田…わーい わーい

楸…クリったー！

ニアン…わぁ

なんとここで再びの命中クリティカル！ 概念破壊も加えてダメージは加速して行き…

山田…剣の追加効果でランク+1 追加効果でランク+1

山田…**「霊力爆縮」**でダメージ+10

山田…霊光昇華でランク+1 と超過霊力1をえてそれで起源発動

山田…さらに剣の追加効果+1

山田…1+2+2+1+1+1+1 でランク9です

ニアン…なぞ

楸…にん

秋長谷…強いぜおねえちゃん

楸…ハイパーおねーちゃんブツパTime

山田…C(10 \* 9 + 17 + 10) 物理攻撃

^BCDice::山田 優子▽::Kamigakari:: 計算結果 ↓ 117

サトル…「がふッ……！ー！」

サトル…「この身体……も……持たない……！」

サトル…「ならば、せめて、貴様らの……道連れを……！」

そのダメージは3桁超えの117点！ ギリギリのところまで死なずに済んだものの、もはや虫の息のサトルは最後の悪あがきに出る……まずは全員が射程圏内にある《死の烈風》で物理攻撃！

サトル…C(8+7) 【命中】

^BCDice::サトル▽::Kamigakari:: 計算結果 ↓ 15

サトル…さあ16を出さないとそこそこ痛い攻撃が飛ぶぞ！

秋長谷：1回燃やす

秋長谷：1D6 霊紋消費

△BCDice：秋長谷 蓮▽：Kamigakari：(1D6) ↓ 1

秋長谷：3d6+5 回避

△BCDice：秋長谷 蓮▽：Kamigakari：(3D6+5) ↓ 8 [2, 2, 4] + 5 ↓ 13

秋長谷：まじかー2回燃やせばよかったなこれ

秋長谷：仕方ない霊力5と4交換して受けよう

楸：次は当たってもいいけどこっちは当たったら泣きたくないので燃やす

楸：エンチャント霊紋ファイア+1d

楸：1d6

△BCDice：楸 勝輝▽：Kamigakari：(1D6) ↓ 4

楸：3D6+8 【回避】

△BCDice：楸 勝輝▽：Kamigakari：(3D6+8) ↓ 7 [2, 2, 3] + 8 ↓ 15

楸：出目2と霊力3を交換、16!

山田：二回めくるし燃やしておこう1d分

山田：1D6 霊紋消費

△BCDice：山田 優子▽：Kamigakari：(1D6) ↓ 2

山田：3D6+7 【回避】

△BCDice：山田 優子▽：Kamigakari：(3D6+7) ↓ 9 [2, 2, 5] + 7 ↓ 16

ニアン：1d6 燃やす

△BCDice：ニアン・ゲーンスイ▽：Dice Bot：(1D6) ↓ 4

ニアン：3d6+4

△BCDice：ニアン・ゲーンスイ▽：Dice Bot：(3D6+4) ↓ 9 [2, 3, 4] + 4 ↓ 13

ニアン：ダメだったので34と11を交換

サトルは崩れかけた鉄の体を滅茶苦茶に振り回し、我が身を顧みぬ捨て身の大暴れ。  
結果は秋長谷・ニアンにヒット！ 38点の物理ダメージが二人に襲い掛かる！

秋長谷：生命消費イ！

秋長谷：2D6 霊紋消費

△BCDice：秋長谷 蓮▽：Kamigakari：(2D6) ↓ 4 [2, 2] ↓ 4

ニアン：34消費でエレメントガープ

ニアン：C(38, 19)

△BCDice：ニアン・ゲーンスイ▽：Dice Bot：計算結果 ↓ 19

ニアン：半減して10点ダメージ

サトル…うわかってえ！

秋長谷…かたい

山田…かたい

楸…かちかち！

秋長谷…「あ、あ、あ、あ、あつ！こんな所でエ…誰が死ぬかッ！」気合で起き上がるぞ  
サトル…「この程度で終わるものか!! 我が苦しみを…：貴様らにも!!」

山田…「ずうずうしいっ。あなたがあの子たちにどれだけの苦しみを与えたと思っているのっ」

ニアン…「甘いなあサド伯爵、練乳を一気飲みしてるみたいに甘いぜ」

サトル…「黙れ！ 貴様らなどは死んで当然！ 苦しんで当然！」

サトル…「我が怒りを喰らい！ 地獄の淵まで沈みやがれエ！」

これを秋長谷は「生命燃焼」(\*32)で立ちあがり、

ニアンは《エレメントガープ》で半減、どうにか戦線離脱を防ぐ！

一方《荒ぶる神性》によって再攻撃のチャンスを得たサトルは文字通り最後の一撃に出る！

サトル…「武器攻撃」：射撃攻撃、7マス、1体対象に「形状射撃」、2d+16の物理ダメージ。「追加効果」：1戦闘中1回、「対象」を「範囲」に変更する。

サトル…この効果を使い、秋長谷さん以外の3人に武器攻撃行きます

ニアン…「範囲」じゃ庇えねえ

サトル…C(8+7) 【命中】

△BCDice：サトル▽：Kamigakari：計算結果 ↓ 15

楸…こっちは喰らっても死なねえ、通常回避！

楸…2D6+8 【回避】

△BCDice：楸勝輝▽：Kamigakari：(2D6+8) ↓ 6 [1,5]+8 ↓ 14

楸…交換してまでは避けない、霊力2と5を交換して回避失敗

ニアン…こっちも通常回避しようか

ニアン…2d6+4

△BCDice：ニアン・ゲインスイ▽：DiceBot：(2D6+4) ↓ 6 [1,5]+4 ↓ 10

山田…もやすのはもうむりー回避

山田…2D6+7 【回避】

△BCDice：山田優子▽：Kamigakari：(2D6+7) ↓ 9 [3,6]+7 ↓ 16

山田…よけたようです

秋長谷…すげえ素で躲した

楸…すげー！

ニアン…すげー！

サトル…感情的に一番山田さんに当てたいのによお！

山田…一番削っていますしね…

命中判定の結果は楸とニアンへのヒット！ 生命力に余裕のある楸は素で耐えきり、防御に優れたニアンは《バリア》で軽減、どちらも気絶することなく攻撃をやり過ぐす！

山田…「師匠の突きに比べたら……」紙一重でよけていく

サトル…「貴様らだけはアアアッ!!！」

誰一人斃れることなくサトルの順番は終わり、待機していた秋長谷にスポットライトが当たる……

秋長谷…じゃ、行きます

秋長谷…5と4使って太刀風

秋長谷…ラルヴァBDにサトル対象

秋長谷…1燃

秋長谷…1D6 霊紋消費

∧BCDice…秋長谷 蓮∇:: Kamigakari:(1D6) ↓ 4

秋長谷…3d6+6 命中

∧BCDice…秋長谷 蓮∇:: Kamigakari:(3D6+6) ↓ 9 [2 3 4] + 6 ↓ 15

秋長谷…超過霊力で記憶再現 霊力爆縮使用

秋長谷…普通に霊力爆縮使用

秋長谷…C(4\*4+31)

∧BCDice…秋長谷 蓮∇:: Kamigakari: 計算結果 ↓ 47

サトル…全員吹っ飛ぶ威力だこれ

秋長谷…さつきと同じダメージである

サトル…裂光の一撃により、サトルの体は崩れ落ち

サトル…「ギィィ……神たるボクが敗れるなんて……」

秋長谷…「神だから、敗れたのさ」

秋長谷…「私達はカミカガリー神を狩るものなのだから」

山田…「それが私たちの役目です」

秋長谷…「人々の間で噂されるだけの伝説であったなら、狩れなどはしなかった」

ニアン…「**っていうか神なんて毎回人類種に負けてるじゃないか**」

山田…「もし九十九ちゃんが楸君を信じなかったり、逆に隠してしまっていたら、私では倒せない存在になっていたのじゃうね」

山田…「そう考えると…あなたを倒したのは九十九ちゃんだったのかもしれないね」



ニアン：「It's too late だねえ。愛に限らず後悔なんて先立たないし、今何をするかを選んだ者がいつも勝者だ。そういう意味では九十九ちゃんと楸君の愛の勝利かもしれないよ」

楸：「お前が神でも何でもいいよ」

楸：「俺の日常を乱したから、ブッ飛ばした。それだけ」

サトル：「あと少し……魂魄さえ、靈魂さえあれば……」

サトル：「おの……れ……カミ、ガカリ……」

GM：「ばつん、と何かの切れる音がして」

GM：「画面の表示が消える。」

GM：「同時に、歪んでいた周囲の空間が戻り始める……」

秋長谷：「……対象消滅を確認」

秋長谷：「疲れた……」その場に倒れ込む

楸：「……終わった、のかな？」

ニアン：「……みたいだね」

山田：「倒れこんだところへかけよって支えますね。「お疲れ様……」

秋長谷：「ふう……三人とも、特対から改めて協力の礼をさせて貰う。後日、贈られるはずだ。受け取ってくれ」

楸：「ありがとうございます！……へへっ」

秋長谷：「勝輝少年、奈々少女に関してだが」

楸：「うん？ 为什么呢？」

秋長谷：「今回の事件、記憶の封印処理を行わせて貰う。超常の存在は口外できない故、理解して欲しい」

楸：「……」

ニアン：「おいおいおい、こいつは彼女自身を守る為でもあるんだぜ」

楸：「……わかりました。大丈夫です。奈々が、じゃないですけど……他にも友達がそうなった事もあるので」

秋長谷：「記憶処理もまた、守る為だ」

楸：「……奈々がこの事を忘れても」

楸：「俺は、覚えてますから」

山田：「楸君……」 かける言葉が浮かばず止まる

秋長谷：「代わりと言っては何だが、勝輝少年」

秋長谷：「私の方から上に君は応援には呼ばせないよう、掛け合おう」

秋長谷：「君は君の大切な人を守るために、その力を使うべきだ」

楸：「いえ、それも……大丈夫ですよ。だって俺は」

楸：「『皆の大切な人』を守りたいんです」

山田：「強い子だね、君は。お姉さんにはまぶしい」

ニアン：「うえっへっへ、そんな男気溢れることを言えるぐらいだし少年の恋の成就是近そうだねえ」

秋長谷：「……それが君の決意だと言うなら、私はそれを否定しない。ただ」

秋長谷：「ただ、覚えていて欲しい」

秋長谷：「それでも自分が最も大切なものを守れなかった時こそ、人は変わらざるを得なくなるのだということ」

楸：「……肝に、銘じておきます」

秋長谷：「では、また会おう。どこかの戦場で」

楸：「はい、またどこかで」

山田：「蓮ちゃん：」暗い声で言った後「そうならないようにするために、私たちがいるんでしょう？」と去っていく背中へ声をかけますよ

秋長谷：「少しだけ、振り向いて」違うよ」

秋長谷：「もう私は違うよ、ゆーおねーちゃん」

秋長谷：「もう、変わった後なんだ」立ち去る

楸：「……それじゃ、皆さん。俺もこれで！」

楸：「またどこかで会えたらよろしくお願いします。では、お元気で！」

山田：「待ってるのは不安なものだからね、早くいって安心させてあげてね」  
（たとえ忘れる記憶でも）は口に出さない

ニアン：「じゃあねー。あんな格好いいことを他の女に聞かせて、彼女を泣かせたりしないでよ？」

楸：「だからそういうんじゃない……まあいっか、それでは！」

楸：「にと笑って、少年は走り去っていく。」

ニアン：「ほらゆーたん、君にも帰る場所があるだろう？  
蓮ちゃんのような子が帰る場所を作るのだから君の仕事だよ」

山田：「そうですね。じゃあ私たちも帰りましょうか、ニアンさん」

ニアン：「おっとすまない、私は帰り道が違っててね、一緒にはいけない。また同じ道を歩む時はよろしくね」

山田：「それは残念。またいつかどこかで」

山田：「でもこんな山の中から帰る道なんてひとつしのないのと内心首傾げる。」

ニアン：「ああ、またね。出来れば平穏な形で」

山田：「山を下りながらの回想をひとつ」

山田：「もしあのアラミタマに三年前……蓮ちゃんの家族が殺されたときに出会っていたら……きっと私は願ってしまったって取り込まれていたのでしょうね」

山田：「……三年さびしかかったけれども……少しは私もつよくなれたの……かな」と空を見上げる

ニアン…皆を見送った後、ニヤリと笑い

ニアン…「いやぁこれだから人類種は素晴らしい。ただあるだけで美しい猫ほどではないが、その命燃やす輝きは何物にも代えがたい代物だ！」

ニアン…「願わくば、私が関与しない内にも、彼らにトラペズヘドロンの昏き輝きの祝福があらんことを」(\*33)

ニアン…そう言うと、ナイトゴーンの背に乗り、日が沈み星が輝き始めた空へと向かってゆったりと飛び立って行った…(\*34)

(\*31)

【生命力】が200点を切ると攻撃回数が追加される、ボス専用のタレント。手軽に強化できることもあって結構な数のボスがこれや似たタイプのタレントを所持している。

(\*32)

1戦闘中に1回のみ使える「霊紋燃焼」。いつでも使用でき、「解除気絶」を得て立ちあがることができる。

(\*33)

秋長谷…すいませんこの祝福クーリングオフしたいんですけど

ニアン…人類種にニヤルの加護は流石に大規模な気がする

(\*34)

ニアン…皆を見送ったあと宇宙に飛び立とうと思ってたけどどうしようかしら

楸…!?

山田…とびだっついんじゃないかなw

秋長谷…ねえこいつやっぱり邪神

GM…いいけども！

楸…《星間旅行》してないですかこの人

ニアン…だっつてしれつと戦闘中にナイトゴーンに乗ってましたよこやつ

GM…あっほんとだ！

山田…よかった。先に帰ったことになった。目撃して正気へらさないですみそうという流れからの退場演出。宇宙に帰るカミガカリ初めて見たかもしれん……。

◆シナリオ終了

ボスを倒してもまだ安心はできない。  
燃焼させた霊紋を回復できなければ、たとえカミガカリといえどもタダでは済まない。  
霊紋回復の時間だ！

GM…まずはエネミーからの霊紋回復！ 全員5+2 〓 7点回復！

GM…この時点で霊紋マイナスはナシ！ 全員生還だ！

山田…わーい プラスになったー

秋長谷…+2まで回復ー ふいー

ニアン…わあい

ということでは今回は全員帰還。

次に処理するのは、ボスである「アラミタマ」が残した「断片」——「クシミタマ」(\*35)の処分だ。

ニアン…金だ！

楸…多分奇跡とか使えば記憶持ち越してできるんでしようけど、それって悪戯に一般人を危険に巻き込むことになるんで

楸…俺ア…こつちですね…（親指と人差し指で丸を作る）

山田…蓮ちゃんと一緒に暮らせませすように…と願いたくなるけど我慢

秋長谷…蓮に復讐諦めさせれば1発っすよ

山田…復讐をあきらめた蓮ちゃんは蓮ちゃんじゃなくなると思うの

秋長谷…素晴らしい蓮の理解度…これはおねえちゃん…

となり、全員資金への変換を選択した。

(\*35)

霊紋を回復し終えた後の「断片」のうち、大きなモノは消失せずに虹色の塊となって残る。

この結晶がクシミタマ。そのままでも大きな力を持ち、小規模な奇跡を起こしたり、あるいは莫大な財産へと変化させることが出来る。

システム的には3000G相当の所持金へと変化させるか、個人の人生の一部を変革したり、後天的な肉体の障害や病を治したりできる「小規模な奇跡」を起こすことが可能。

▼シーン9…ニアンという女  
シーンプレイヤー…ニアン・ゲーンスイ

ニアン…「よっす。私、私。ニアンだつて。うん、さつきまで地球に戻ってさ、せつかくなら電波が届く内に連絡しとこうと思つてさ」

ニアン…「……そーそー、オオサカの異能と違つて神様ぶつ殺す専門？ つていうか、そんな能力持つてんのよ皆。いやあマジで凄くない？ 人類種の人間離れが進みがちだぜ？」

ニアン…「……うん、そーだね、猫が一番とは言え犬も好きだしなあ。またオオサカにわふ子撫でに行くよ、その時は一緒に呑もうぜ」

ニアン…「ん、じゃあまたねー」

ニアン…電話を切り、眼下に広がる青い星を眺めながら、誰か自分の姿を見つけやしないかと大きく手を振りながら、ニアンとナイトゴーストは宇宙の果てへと飛び去って行く……。(\*36)

(\*36)

GM…本シナリオのEDはPC1以外かなり自由です

GM…何か希望があればどうぞ！ なければシナリオ側で用意されたものにしましょう

ニアン…宇宙に帰っちゃったよこの人!?

GM…思いつかねえ！ つて場合は宇宙エンドでもいいんだ

GM…というかさっきのがきれいなシメすぎてGMにもちよつと思いつかない…

ニアン…空を見上げたなら上に落ちていく流れ星みたいなものが見えるかもしれない

秋長谷…ほら…旧支配者とあつて面白い人間いたぜーつて土産話するとかさ…

ニアン…じゃあ知り合いと電話する感じにしよう

……という流れで、このようなEDになった。

秋長谷…一人だけ存在のスケールが違う！

▼シーン10…事件解決

シーンプレイヤー…秋長谷・山田

「特対」の分室。キミは報告書作成に追われていた。

GM…そんなキミのもとに、室長の卜部がやってくる。

秋長谷…いつも知性持ちの誉の名槍、仁君に作成手伝って貰っています

卜部…「ご苦労様。キミの活躍で事件は無事解決した」と疲れた笑顔で話し始めよう

卜部…「基地局の方も、昨夜から通常通り復旧している。本当にご苦労だった」

秋長谷…「いえ、室長も後始末ありがとうございます。ここに来られたということは終えられたのですね？」

卜部…「はは……」明言はしない。

卜部…「……それで、どうだったかね、今回の仕事は」

卜部…「手近な椅子に座ると、正面からそう問いかける。」

秋長谷…「心強いカミカガリと繋がりが持てましたし、事件自体都市伝説が力を得たものとよくあ  
る話でした」

秋長谷…「誤解を恐れずに言えば我々にとって有意義であったかと」

卜部…「そうか……それならよかった」

卜部…「……君の肩にかかった重荷も、少しは軽くなったかな」

卜部…「つと、これはオッサンの独り言だよ」

秋長谷…「お気遣い痛み入ります」

秋長谷…「ですが……ええ、まだ始まってすらいません。まだ、軽くはできません」

秋長谷…「この重みこそが私を理性を保たせる錨であればこそ——私はここにいるのですから」

秋長谷…「まだまだ、お世話になりますよ」

卜部…「そう、か……」

卜部…「なら、まだしばらくは仕事を頼めそうだな」

秋長谷…「ええ、私が抜けると大変でしょう？ こき使ってください」(\* 37)

卜部…「いい覚悟だ。その言葉、後悔することになるだろうな」

卜部…「にやり、と笑って席を立つと、わざとらしい伸びを2つ3つ

卜部…「ところで、君にお客さんがいらしている……かもしれないのだがね」

卜部…「どうだい、少し散歩にでも出てみては？」

秋長谷…「お客さん……？ 覚えがありませんが……行ってきます」

卜部…「ああ、なに。報告書は明日以降でもいいさ」

卜部…「楽しんできたまえ、と笑って彼女を見送るだろう。」

秋長谷…「首を傾げながら出て行く」

山田…特対が入っているビルから地上に出て、日差しが蓮ちゃん目を照らしたところで  
山田…まっくらになり後ろから声がかかりますよ

山田…「だーれだー」

秋長谷…「ひゃあっ」

山田…「わかるかなー？ わからないかなー？ わからないならーひんとー。おねえちゃんです」

秋長谷…「ん、んっ……私のおねえちゃん名乗る人なんか一人しかいないよ……」

秋長谷…「……優子姉さん」

山田…手をまぶたからそつとはなして、笑顔で答えましょう「はい、大正解。さすが蓮ちゃん」  
山田…「大きな仕事終わったし、ボーナスも出たし、お疲れさまってことで、おいしいもの食べに行こう。最近ステーキハウスがこの町にもできたんだよ」

秋長谷…「ご飯……一緒に食べるくらいなら」

山田…「うん、よろしい。素直な子にはお姉ちゃんが奢ってあげよう」といいながら、手をすつと差し出します

山田…子供のころ手を引いて歩いて歩いた時のように

秋長谷…「私ももうお給料は貰ってるからお金はあるよ」

山田…「むっ。可愛くないこというようになってる」

秋長谷…「おずおずと手を差し伸べて、人差し指だけがまず優子の掌に触れる」

山田…「こちらは手を動かさずにじつとまつ」

秋長谷…「可愛くないし……」

山田…「かわいいよ、蓮ちゃんは。だって私の妹だもの」

秋長谷…「優子姉さんの方が可愛いもん」

山田…「そんなところが可愛いんだよ、蓮ちゃんは」と照れるように笑った後ふと、顔を真面目にして

山田…「楸くんをさ、みていて、思い出したんだ。嫌で苦しかった修行をちゃんとやるようになった理由を」

秋長谷…「嫌だったの？」驚きの表情

山田…「だっていくらやってもうまくできないし、きついし、汚れるし、嫌だったよ」

秋長谷…「私好きだったけどなあ……」

山田…「でもね、嫌じゃなくなっただ。ううんむしろ積極的にやるようになった」

秋長谷…「そうなんだ、どうして？」

山田…「しりたい？ でも内緒。いつか…蓮ちゃんが話してくれたらね」

山田…「さあ、ごはんに行くよー。蓮ちゃんの話は聞かないけど私の話は聞いてもらうからね、三年分たくさん話したいことあったんだから」

山田…「今度は手をこちらからのばしてぎゅっ握手します」

秋長谷…「……まだ仕事残ってるから、手加減をば」





▼シーン11…現代の魔術師(\*38)  
シーンプレイヤー…楸勝輝

……あの事件から数日後。

チャイムが鳴り、昼休みを迎え席を立ったキミは、今日の食事について考える。すると、奈々が悩んだ表情で近づいてくる。

九十九：「おーっす……いやあ参った参った」

楸：「今日のごはんは……っと、どうしたよ奈々」

九十九：「なんかさ、みんながアタシに占いでしょ……頼むんだけど……アタシ占いなんてできないし」

楸：「あれじゃねーの？ オカルトと占いでしょ……それで変な噂立たんじゃねえのー」

楸：「あ、そうだ。タロット占いとかどうか？」

九十九：「あーそれかア……うーん、参ったなあ」

九十九：「オカルトは好きだし、占いも嫌いじゃないんだけどねえ」

九十九：「……なんだろう、こう、アレですよ」と手をシヤカシヤカと動かす

楸：「なんですよ」

九十九：「人の運命をさ、勝手に決めつけちゃうようなのってこう……抵抗がある？ 感じ？」

九十九：「我ながら殊勝な考えだけど、どーもね……占う側にはなれませんか」

楸：「……いーんじゃない？ それはそれでさ」

楸：「指と指を合わせ、前に、後ろに揺らして。」

楸：「俺はそういう考え、嫌いじゃないよ」(\*39)

九十九：「嫌いじゃない、という部分を訊くと、じわりじわりと口の端が上がってゆく。」

九十九：「……うん、楸がそういうならそうなんですよ！ 信じるぜあたしは！」

九十九：「ま、実際占いが必要なのはあたしの方なんだけどさ……」

九十九：「ああ、占いでヤマがわかればなあ！ 明後日の数学……」(\*40)

楸：「んふふ、普段からのお勉強がモノを言うのだよ奈々くうん」

九十九：「ケツ！ 調子乗りやがってコノヤロー！」

楸：「なーんとでも言えー！」

楸：「……ま、俺は占いなんてことは出来ないけど」

楸：「後で勉強付き合ったりは出来るぜー？」

九十九：「お、そういうの阿リな感じですか？」

楸：「阿リな感じですよ」

九十九：「んじゃ、今日の放課後に茶店集合ね！ きつちり教えてもらおうから！」

楸：「何せ次成績悪かったらお前雑誌没収なんだろうー？ みつちり対策練ってやるからな」

九十九：「げえ！ なんてそれ知ってるの!!」

九十九：「そうなんだよお、来月の楽しみがパーになるのはちょっとね……」

九十九…「だからさ、しっかり教わるから見捨てないでくれ！」

楸…「この勝輝様には何でもお見通し、なんてな」

楸…「はっは、当然よ。俺は——」

楸…「困ってる人の味方」、だからな！」

日常から離れた者。非日常に憧れる者。

乱雑に開かれたカバン。ペンで黒く汚れた制服。

磨かれず、埃をかぶったディスプレイ。

夕方の街を帰る学生の群れ。

願いは、ただ人々の小さな幸せのために。

そしてヒーローは、その幸せを守るために

すべては、奇妙な都市伝説から生まれた物語。

武装伝奇RPG神我狩——『願いの神』

(\* 38)

楸…いやあ公式もついにゴッドハンドを魔術師と認めたか

GM…魔術(物D)

ニアン…シャイニングウィザードだって物理攻撃なんだからゴッドハンドも魔術だよ

山田…うん うん…うん？

(\* 39)

山田…イケメンだけに許されたセリフ「嫌いじゃないよ」いいですね。いわれてみたい

ニアン…こういうことをさらっと言えるからPC1なんだなってなる

山田…わかる

(\* 40)

秋長谷…カミカガリ式テスト必勝法ー！

秋長谷…【物理超越】

山田…魂をもやせー

楸…そんな事に霊紋使ってるじゃねえ！

秋長谷…テストは法則障害か否か？ 議論は昼夜続いたという

ニアン…でもこういうささやかな悪事を働く時に限ってファインブルするんですよ…

GM…テストは法則障害…出題者を除籍処分にすれば…！

山田…新しい問題が作られるだけです

秋長谷…突破時のデメリットは補習に出る、だな…

山田…良い子は真面目に受けよう（消去しよう）ね

GM…突破できてくない!?

秋長谷…甘い学校だと補習に出たら単位くれるし…